青森県埋蔵文化財調査報告書　第293集

宮本（2）遺跡

－県道青森五所川原線道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告－

２００１年２月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第293集

宮本（2）遺跡

－県道青森五所川原線道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告－

２００１年２月

青森県教育委員会

調査区遠景（西から）

序

津軽半島の背骨をなして南北に連らなる津軽山地は、青森市の北西部において、陸奥湾沿いに分布する青森平野と接している。この丘陵の先端部には、縄文時代から中世までの多数の遺跡が確認されており、これまでに四戸橋（１）遺跡、内真部（４）遺跡、野木和（１）遺跡、岡町（２）遺跡等の発掘調査が行われました。

これらに加えて、平成11年度に県道青森五所川原線道路建設事業の実施に伴い、当センターが宮本（２）遺跡の発掘調査を実施しました。

この調査によって、今回の調査区からは多数の土坑が検出されました。形態や台付土器、小型土器を伴うものもあることから、その多くは土坑墓として使用されたものと推定されます。時期は、出土した土器片から後期前半期と思われます。また、出土遺物の中に、漁労に使用されたと思われる石製の錘や軽石が含まれており、比較的海岸に近いという立地条件からも、当時の人々の生活を推定するうえで、貴重な資料であると考えられます。

今後、近隣の遺跡との関連の研究を含め、この地域の歴史を明らかにすることに、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

結びに、この調査の実施及び報告書の作成にあたり、関係機関並びに各位から賜った御指導、御協力に対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成13年２月

青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　中　島　邦　夫

例　　言

1　本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが平成１１年度に発掘調査した県道青森五所川原線道路建設事業に伴う宮本（２）遺跡の発掘調査報告書である。

2　本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集作成した。なお、執筆者名は依頼原稿については文頭に、その他は文末に付した。

3　挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、遺物写真の縮尺は統一していない。

4　土層等の色調観察には1996版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖（小山正忠・竹原秀雄1996）」を使用した。

5　資料の鑑定及び同定、分析については、次の方々に依頼した（順不同・敬称略）

石質の鑑定　　松山　力　（八戸市文化財審議委員）

放射性炭素年代測定　　（株）地球科学研究所

6　本書に掲載した地図は、国土地理院発行の２万５千分の１の地形図を複製したものである。

7　引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。

8　調査における出土遺物・実測図・写真等は現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

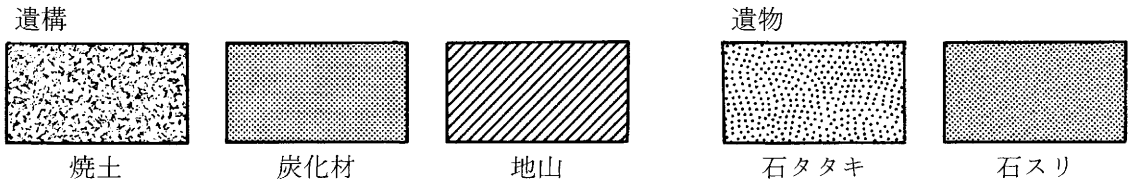
9　発掘調査及び本報告書作成にあたり、次の機関並びに諸氏から御教示、御指導を受けた。

（アイウエオ順、敬称略）

青森県立郷土館、青森市教育委員会

遠藤正夫、奥山一恵、小野貴之、小山彦逸、葛西励、北林八洲晴、木村淳一、工藤　大、児玉大成、佐々木一人、設楽政健、高橋潤、田澤淳逸、長尾正義、沼宮内陽一郎

スクリーントーン凡例



目　次

序
例言
目次

第１章　調査の概要……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査の要項……1
　第３節　調査の方法……2
　第４節　調査の経過……2
　調査区域図・グリッド配置図……3

第２章　遺跡の環境……4
　第１節　遺跡の位置……4
　第２節　遺跡の地形と地質について……5

　遺構配置図……8
第３章　縄文時代の遺構と出土遺物……9
　第１節　検出遺構……9
　　1　土坑……9
　　2　掘立柱建物跡……23
　第２節　出土遺物……24
　　1　土器……24
　　2　石器……24
　　3　土製品・石製品……25

第４章　古代以降の遺構……39
　第１節　検出遺構……39
　　1　竪穴遺構……39
　　2　土坑（焼成遺構）……39

第５章　自然科学的分析……41
　第１節　放射性炭素年代測定……41

第６章　まとめ……43
　引用参考文献……43
　報告書抄録……44
　写真図版……45

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経過

平成10年度に県土木部道路建設課から県道青森五所川原道路建設予定地にかかる遺跡について照会があった。現地を踏査したところ予定路線内には宮本（２）遺跡、岡町（６）遺跡、岡町（８）遺跡岡町（９）遺跡、野木和（３）遺跡がかかり、さらに野木和（２）遺跡にも隣接することが分かった。

この道路の建設計画では、宮本（２）遺跡の周辺で曲線になっている現道を直線道路に造り変え、他の部分は現道を拡幅するものである。

宮本（２）遺跡は、現状が畑地と草地で踏査した結果蔬菜畑から縄文時代後期の土器破片が表面採集された。他の遺跡は、現状が宅地あるいは畑地ないしは雑木林で、盛り土等がなされているためか踏査時には遺物を採集できなかった。遺跡カードでは、いずれも縄文時代と平安時代の複合遺跡とされている。このような状況から平成11年度は、宮本（２）遺跡を発掘調査し、他の遺跡については、遺物・遺構の有無を確認する調査を実施することとなった。

（成田　誠治）

第２節　調査要項

１　調査目的

県道青森五所川原線道路建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する青森市宮本（２）遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

２　発掘調査期間

平成11年４月21日から同年７月30日まで

３　遺跡名及び所在地

宮本（２）遺跡（青森市遺跡番号０１１８５）

青森市大字岡町字宮本75－124　外

４　調査面積

約２，７００平方メートル

５　調査委託者

青森県土木部道路建設課

６　調査受託者

青森県教育委員会

７　調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

８　調査協力機関

青森市教育委員会

９　調査参加者

調査指導員　市川　金丸　　青森県考古学会会長（考古学）
調査協力員　池田　　敬　　青森市教育委員会教育長
調　査　員　藤沼　邦彦　　弘前大学人文学部教授（考古学）
〃　　島口　　天　　青森県立郷土館研究員（地質学）
調査担当者　　青森県埋蔵文化財調査センター
所　　長　　中島　邦夫
次長・調査第一課長　　成田　誠治
総務課長　　成田　孝夫
文化財保護総括主査　　中嶋　友文
文化財保護主事　　竹内　誠司
調査補助員　　今　　直子、斎藤奈穂子、松原　朋子、木立　未来

第3節　調査の方法

調査の方法は、道路のセンター杭、No.80とNo.81の基準線として、4×4mのグリッドを設定して用いた。グリッドはNo.80をQ－15として、東西方向に算用数字、南北方向にアルファベットを付し、その呼称は南東隅の杭番号を使用し、例えばO－15と呼称した。磁北は南北の基準線から10°西に傾いている。

標準原点は、近辺に設置された工事用原点からレベル移動を行い、調査区内に数カ所設置した。

遺構の精査は、原則として住居跡は四分法で、その他は二分法で行うこととしたが、遺構によっては、必要に応じて適宜セクションベルトを設けた。精査の結果、遺構と判断できない風倒木跡、抜根跡などの落ち込みは、精査から除外した。（欠番となる。）

実測は、簡易遣り方測量を用い、縮尺は20分の1を原則としたが、必要に応じて10分の1を採用した。土層の注記には、「標準土色帖」を採用した。

写真の撮影にあたっては、35mmのモノクローム・カラーネガフィルムの各フィルムを併用して必要に応じて行った。

第4節　調査の経過

平成11年4月20日、発掘調査に備えてグリッドの設定を行った。

4月21日、発掘調査機材を運搬し周辺の整備を行い、午後から調査区内の草刈を開始した。また、ベンチ・マークの移動も並行して行った。

4月22日から、発掘調査の粗掘りおよび精査を開始した。

5月18日、重機による仮設道路の敷設及び現道部分の表土処理を行った。

5月17日、青森市アラスカ会館にて合同の調査打ち合せ会議を行った。

6月1日、未調査（未買収）部分の調査を開始する。

6月14日から7月23日まで野木和(3)、岡町(8)・(9)遺跡の確認調査を行った。

7月30日、調査機材を搬出し、宮本（2）遺跡の発掘調査を終了した。

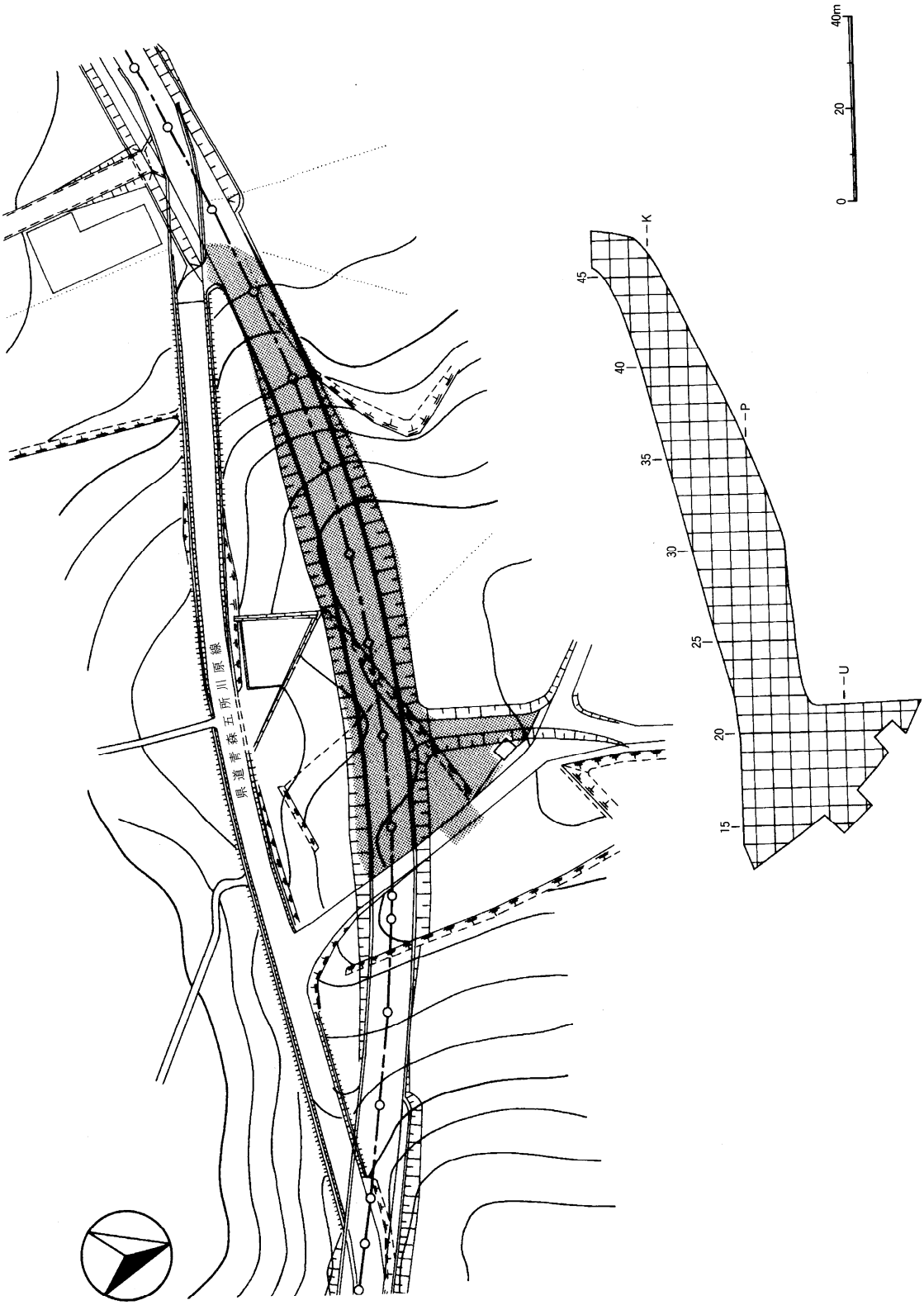


図１　調査対象区域図・グリッド配置図

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置

青森市の地形は、陸奥湾に面した北側の平野部と、それを囲むように位置する東・西・南側の山岳丘陵地帯からなっている。

宮本（２）遺跡は、市街地から西方およそ10km離れた野木和湖のすぐ南の低丘陵地上に位置している。遺跡周辺の地形は、なだらかな斜面で、遺跡が所在する丘陵は畑地や山林が広がっている。標高は、およそ40mである。

図２　遺跡位置図

第２節　遺跡の地形と地質について

青森県立郷土館　　島口　　天

１．地形

宮本（２）遺跡のある青森市北西地域は、津軽半島の南東部に位置し、東側を青森湾に面している。津軽半島の主体をなす山地は、北北西－南南東方向に走る津軽山地であり、主な山頂は、北から増川岳（714m）、大倉岳（677m）、馬ノ神山（549m）で、南に向かって低くなる傾向がある。また、半島北東部にも丸屋形岳（718m）を中心とする山地がある。本地域がある山地の南東側には、範囲は狭いが丘陵地が分布し、丘陵地周辺の低地に面した地域には、台地が分布する。低地の大部分は、陸奥湾岸に沿って南北に細長く分布する青森平野で、その幅は内真部・六枚橋付近で約５kmと広いが、瀬戸子以南および阿弥陀川以北では台地によって狭められている。本遺跡は、この地域の主要地方道（青森－五所川原線）沿いにあり、南北を青森平野に向かう小谷に挟まれた起伏の小さな地形面上に位置し、標高は約40mである。

本地域に発達する段丘地形について、吾妻（1995）は次のように述べている。山地と平野の境界は扇状地や崖錐に覆われ、ここには５段（Ⅰ～Ⅴ）に区分される海成段丘が分布する。しかし、蓬田から野木和の間では、段丘面は次第に高度を下げ、沖積面下に埋没する。そして、野木和付近には最終間氷期最盛期に形成された海成段丘（Ⅲm面）の分布が認められ、その高度は約15mである。

また中川（1972）は、青森平野周辺部には小規模かつ局所的に段丘が分布し、高位段丘の豆ノ坂段丘、中位段丘の浪館段丘（段丘面は標高20m以下）、諸河川流域にわずかに見られる低位段丘の３段が認められ、浪館段丘は野木和にも分布するとしている。中川（1972）の中位段丘とは、三八・上北地方に広く分布する高館段丘などを代表としており、この段丘面は、中川（1961）や宮内（1985）が最終間氷期最盛期に形成されたと考えていることから、吾妻（1995）のⅢm面に対比される。

水野・堀田（1984）は、その地形分類図の中で本遺跡周辺を野木和台地とし、台地を標高・傾斜・開析状態・構成物から４つの地形面に区分して、野木和公園周辺に見られる平坦な地形面をGtⅡ面（中位面：標高10～30m）としている。これは吾妻（1995）のⅢm面や中川（1972）の浪館段丘に相当すると考えられる。そして本遺跡の位置は、それより上位のGtⅡ$^{+}$面（中位面：標高30～50m）とされている。

２．地質

津軽半島の山地は、増川岳、大倉岳、馬ノ神山、丸屋形岳を中心に４つの山塊に区分され、構造地質学的には構造ドーム（北から四ツ滝ドーム、袴腰岳ドーム、馬ノ神山ドーム、および北東部の平舘ドーム）とされている。各ドームの中心には第三系火山岩や堆積岩が露出し、周囲に新第三系・更新統の堆積岩が分布する。津軽山地のドームの東縁には、津軽断層が三厩から浪岡北方にかけて南北に走る。この断層は70～80°西傾斜した衝上性逆断層で、山地の地質構造を東西に二分する。断層の東側は鮮新統～更新統の堆積岩が厚く堆積するのに対し、西側は中部中新統よりも新しい堆積岩が緩く西へ傾いて分布する（吾妻，1995）。

本遺跡が位置する地域には、更新統の岡町層（加藤ほか，1958）が分布する（箕浦ほか，1998）。

岡町層は、青森市岡町西方を模式地とし、層厚は約100mであるが地域的な変化が著しい。主に級化層理の発達した細円礫や砂あるいは粘土からなり、青灰色のシルト・ラミナの発達した中粒砂・泥炭等を挟む。砂層は礫を含んでクロスラミナが発達する場合がある。大釈迦層（今泉，1949）を不整合に覆い、鶴ケ坂層（飯塚，1930）には軽微な不整合をもって重なるが、鶴ケ坂層との構造差はほとんどない（根本・山口，1998）。

次に、本遺跡の基本層序について記述する。

Ⅰ層　暗褐色土層（10ＹＲ3/4　厚さ10～20cm）

耕作土。ローム粒（0.5～２cm）が少量含まれ，締まりがなく脆い。円筒上層式、十腰内Ⅰ式といった土器のほか、土師器が出土。

Ⅱ層　黒褐～暗褐色土層（10ＹＲ2/2～3/3　厚さ５～20cm）

耕作土。遺跡のある場所は、畑地として長芋などの栽培が行われていたため、耕作による擾乱が地中深部にまで及んでいる。Ⅰ層より粘性・湿性があり、締まっている。混入するローム粒の粒径（0.5～２cm）と色、締まり具合により、上位からⅡa層、Ⅱb層、Ⅱc層、Ⅱd層の4層に区分される。Ⅱc層は特に、ブロック状のロームとの混合土となり、締まりがない。十腰内式土器が出土。

Ⅲ層　褐色土層（10ＹＲ4/4　厚さ10～20cm）

下位層への漸移層で、遺物は出土していない。ローム粒（0.5～1cm）や炭化物を少量含み、粘性・湿性があり締まっている。

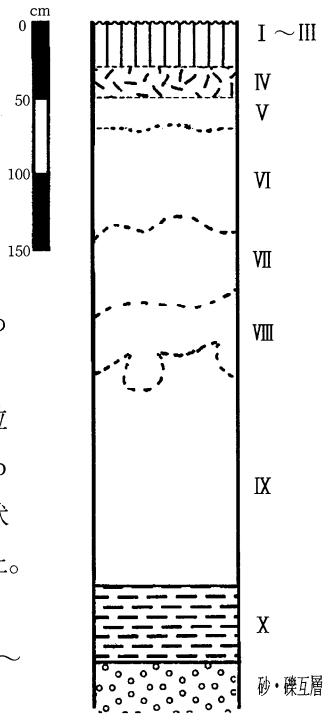


図１　地質柱状図

Ⅳ層　黄褐色軽石質火山灰層（10ＹＲ5/6　厚さ10～20cm）

固く締まりがあるが、粘性がなく崩れやすい。細礫や下部にいくほど小さくなる傾向がある粒径1cm以下の軽石粒を含む。下位層との境に、レンズ状に固く締まった明紫灰色の砂質火山灰が挟まれることがある。弘前大学理工学部において本層に含まれる火山ガラスの化学組成分析を行った結果、十和田－八戸テフラ（To－H:Machida,1999;青木・新井，2000）に同定された。

遺跡地内で確認できた層序は以上であるが、隣接する場所にこの下位の地層を観察できる小露頭があり、以下に示す地層が観察できた。なおⅥ～Ⅸの４層中には、島口（2000）が２層準に発達する周氷河性インボリューションを報告しているが、このインボリューションによる各層の層厚変化が著しいため各々に層厚を明記せず。４層を合計して約３mと記載しておく。

Ⅴ層　にぶい黄褐色ローム層（10ＹＲ5/4　厚さ約20cm）

粘性があり、固く締まる。細礫を微量に含む。下位層のインボリューションによる地形を反映しているのか、Ⅳ層との境が波打つように見えるところもある。

Ⅵ層　にぶい褐色ローム層（7.5ＹＲ5/4）

粘性があり、やや砂質で、乾燥してもクラックはあまり発達しない。Ⅶ層との境に変形の緩やかなインボリューションが発達する。

Ⅶ層　褐色ローム層（7.5ＹＲ4/4）

粘性が高く、乾燥すると細かいクラックが発達する。にぶい黄褐色ローム層（10ＹＲ6/4）が挟在する。

Ⅷ層　にぶい褐色ローム層（7.5ＹＲ5/3）

粘性があり、やや砂質で、乾燥してもクラックはあまり発達しない。Ⅸ層との境に変形の著しいインボリューションが発達する。

Ⅸ層　褐色ローム層（7.5ＹＲ4/6）

粘性が高く、乾燥すると細かいクラックが発達する。

Ⅹ層　灰白色粘土層（5Ｙ7/1　厚さ約50cm）

粘性が高く、斜長石、石英、粘土鉱物から成り、海綿骨針を化石として含む。上部は暗茶灰色に漸移し、Ⅸ層との境は不明瞭である。鉄分が沈積したと思われる茶褐色で垂直方向に伸びる不規則な細い穴が顕著で、断面には茶褐色の同心円状の斑紋が見られる。

これらの下位には、マンガンと考えられる黒色の細かい粒が平行に並ぶ厚さ10cmのシルト層を挟み、粗粒砂と中礫の互層が発達する。中礫は大きいもので長径５cmを越え、亜角～亜円形で泥岩や凝灰岩からなる。

地形・地質から、亜角～亜円礫と粗粒砂の互層とその上位の海綿骨針を含む粘土層（Ⅹ層）を段丘構成層と考え、本遺跡の位置する場所は岡町層を基盤とする海成段丘面上にあると推定される。そしてこの段丘面は、野木和付近に分布する最終間氷期最盛期に形成された中位段丘面より高位であるため、形成時期はそれより前であると考えられる。また、Ⅹ層は火山灰起源と推定されるが、粘土化が進み火山灰の特定は難しい。さらに上位の褐色ローム層中の２層準に発達する周氷河性インボリューションのうち、下位のインボリューションの形成時期を島口（2000）がＭＩＳ４と推定しており、その層準以下のローム層の堆積時期は、段丘面形成後からＭＩＳ４までの間と考えられる。

《引用文献》

青木かおり・新井房夫（2000）三陸沖海底コア　ＫＨ94－3，ＬＭ－８の後期更新世テフラ層序．第四紀研究，**39**：107－120

吾妻　崇（1995）変動地形からみた津軽半島の地形発達史．第四紀研究，**34(2)**：75－89

飯塚保五郎（1930）青森油田の地質に就いて．地質学雑誌，**38**：727－732

今泉力蔵（1949）弘前盆地東縁の地質．地質学雑誌，**55**：182

加藤磐雄・田口一雄・斉藤俊明（1958）青森市西部地区の地質．青森県油田調査報告書，青森県水産商工部商工課，6－20

Machida,H（1999）Quaternary Widespread Tephra Catalog in and around Japan：Recent Progress．*The Quat. Res.*,**38**:194－201

水野裕・堀田報雄（1984）Ⅰ地形分類図．土地分類基本調査「油川」５万分の１国土調査，青森県，11－15

中川久夫（1972）第二部青森県の第四系．青森県の地質，青森県，71－120

根本直樹・山口義伸（1998）Ⅱ地質各論１津軽地域ⅲ第四系．青森県の地質，青森県，44－59

箕浦幸治・小管正裕・柴正敏・根本直樹・山口義伸（1998）青森県地質図．青森県

宮内崇裕（1985）上北平野の段丘と第四紀地殻変動．地理学評論，**58**：492－515

島口　天（2000）青森市野木和における化石周氷河現象．青森自然誌研究，**5**：65－68

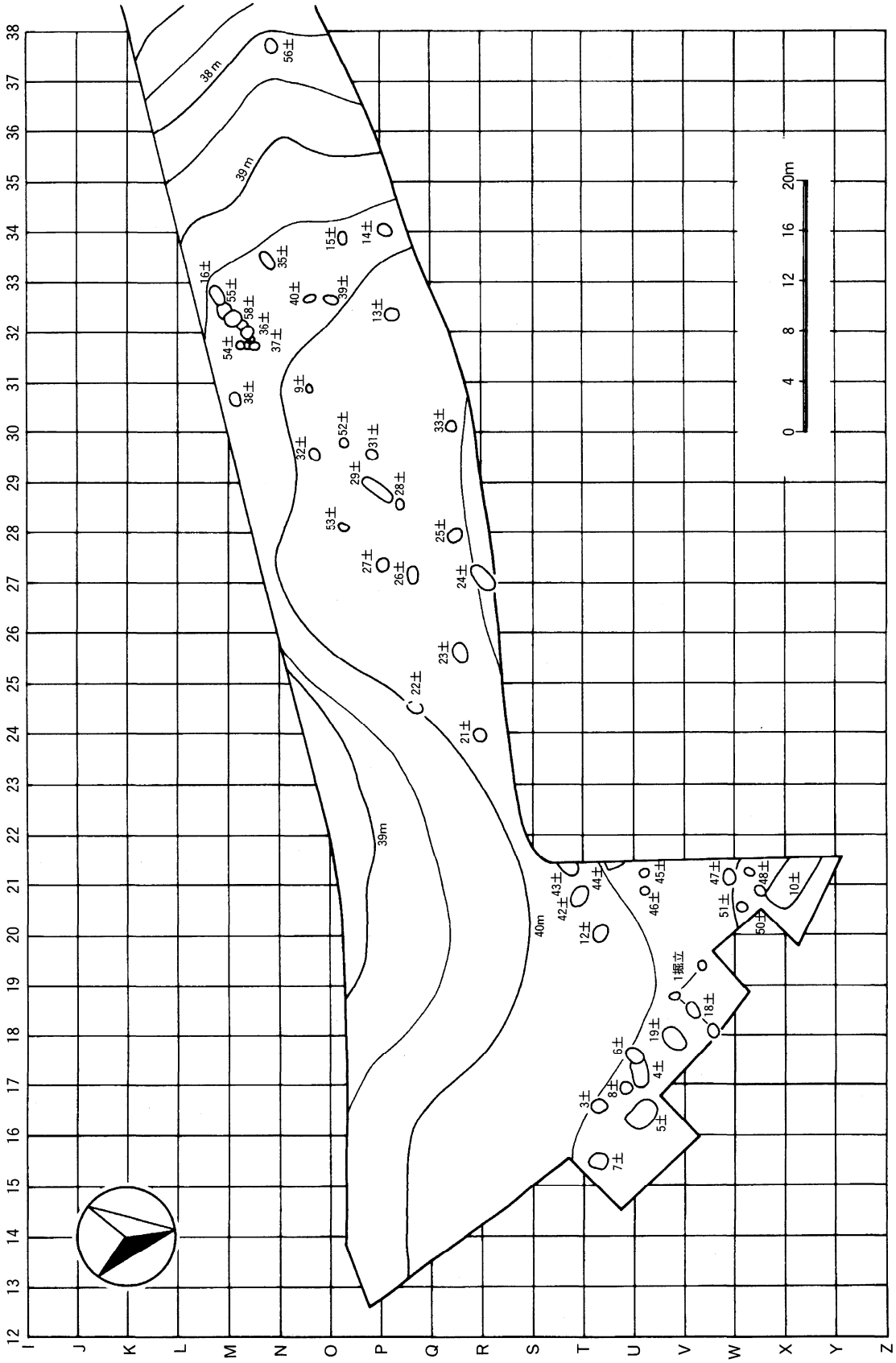


図3　遺構配置図

第３章　縄文時代の遺構と出土遺物

第１節　検出遺構

検出した遺構は、土坑４６基、掘立柱建物跡１棟である。

１　土坑（図４～21）

第４号土坑（図４・12）

［位　置］　調査区東側のＵ－17グリッドに位置し、第６号土坑と重複し本土坑が古い。

［平面形・規模］　西側が重複しており長軸は不明、短軸１m29cmの長楕円形で、深さは15cm、底面は平坦である。

［堆積土］　堆積土は黒褐色土が混入する暗褐色土の層のみである。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第５号土坑（図４・12）

［位　置］　調査区東側のＴ・Ｕ－16グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸2m83cm、短軸1m5cmの不整楕円形で、深さは95cm、底面はやや起伏があり、ピット（深さ7～16cm）がみられる。

［堆積土］　５層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第６号土坑（図４・図12）

［位　置］　調査区東側のＴ・Ｕ－17グリッドに位置し、第４号土坑と重複し本土坑が新しい。

［平面形・規模］　長軸1m45cm、短軸1m12cmの楕円形で、深さは40cm、底面は平坦である。

［堆積土］　３層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第８号土坑（図４）

［位　置］　調査区東側のＴ・Ｕ－16グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m5cm、短軸93cmの不整形で、深さは15cm、底面に起伏がみられる。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第９号土坑（図４）

［位　置］　調査区中央部のＮ－30グリッドに位置する。

［平面形・規模］　断面形がフラスコ状で、開口部直径70cm、坑底部直径95cmのほぼ円形で、深さは36cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第12号土坑（図５・12）

［位　置］　調査区東側のＴ－19・20グリッドに位置する。

［平面形・規模］長軸1m41cm、短軸1m11cmの楕円形で、深さは34cm、底面に起伏がみられる。

［堆積土］　2層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第13号土坑（図5・12）

［位　置］　調査区中央部P－32グリッドに位置する。

［平面形・規模］　断面形が二段のフラスコ状で、開口部直径85cm、一段目の坑底部直径1m60cm、二段目の開口部直径55cm、坑底部直径90cmの円形で、深さは1m14cm、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］　6層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第14号土坑（図5）

［位　置］　調査区中央部のP－33・34グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m、短軸85cmのほぼ方形で、深さは15cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　褐色土層のみである。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第15号土坑（図5）

［位　置］　調査区中央部のO－33グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m17cm、短軸70cmの楕円形で、深さは15cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　褐色土層のみである。

［出土遺物］　覆土から深鉢と土器の破片が出土している。

第16号土坑（図10・12）

［位　置］　調査区中央部のL－32グリッドに位置する。第55号土坑と重複し本土坑が新しい。

［平面形・規模］　長軸1m52cm、短軸98cmの楕円形で東側に23cmほどの段をもつ、深さは35cm、底面に起伏がみられる。

［堆積土］　褐色土層のみである。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第17号土坑（図10・12）

［位　置］　調査区中央部のL・M－32グリッドに位置する。第55号・第58号土坑と重複し本土坑が新しい。

［平面形・規模］　長軸1m48cm、短軸1m15cmの楕円形で、深さは48cm、底面に起伏がみられる。

［堆積土］　3層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第18号土坑（図5・13）

［位　置］　調査区東側のV－18グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m88cm、短軸85cmの楕円形で、深さは42cm、底面に起伏がみられる。

［堆積土］　2層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第19号土坑（図6・13）

［位　置］　調査区東側のU－17・18グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸2m7cm、短軸1m38cmの楕円形である。深さは45cm、底面はほぼ平坦であ

る。

［堆積土］　３層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と剝片・礫が出土している。

第21号土坑（図６・13）

［位　置］　調査区東側のＱ・Ｒ－23・24グリッドに位置する。

［平面形・規模］　直径約93cmのほぼ円形である。深さは38cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第22号土坑（図６・13）

［位　置］　調査区中央部のＰ－24グリッドに位置する。

［平面形・規模］　西側はトレンチによって切られているが、残存部分から平面形は楕円形と考えられる。深さは43cm、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第23号土坑（図６・13）

［位　置］　調査区中央部のＱ－25グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m55cm、短軸1m22cmの楕円形で、深さは52cm、底面は平坦である。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第24号土坑（図６・13）

［位　置］　調査区中央部のＱ・Ｒ－26・27グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸2m45cm、短軸1m38cmの楕円形で、深さは27cm、底面にやや起伏があり、ピット（深さ10ｃｍ）がみられる。

［堆積土］　２層に分層され、暗褐色土主体の層である。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と、漆？が内面に付着した土器底部が出土している。

第25号土坑（図６・13）

［位　置］　調査区中央部のＱ－27グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m32cm、短軸93cmで南側がやや広がる楕円形で、深さは16cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　４層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第26号土坑（図７・13）

［位　置］　調査区中央部のＰ－27グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m23cm、短軸87cmの楕円形で、深さは21cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第27号土坑（図７・13）

［位　置］　調査区中央部のＯ・Ｐ－27に位置する。

［平面形・規模］　直径85cmのほぼ円形で、深さは10cm、底面にやや起伏がみられる。
［堆積土］　黒褐色土層のみである。
［出土遺物］　覆土から土師器の破片が出土している。

第28号土坑（図7）
［位　置］　調査区中央部のP－28グリッドに位置する。
［平面形・規模］　直径約80cmのほぼ円形で北側に約10cmの段をもつ、深さは39cm、底面は平坦である。
［堆積土］　3層に分層される。
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第29号土坑（図7）
［位　置］　調査区中央部のO・P－28・29グリッドに位置する。南側の一部が撹乱をうけている。
［平面形・規模］　長軸2m74cm、短軸82cmの長楕円形で、深さは15cm、底面にやや起伏がみられる。
［堆積土］　3層に分層される。
［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第31号土坑（図7・13）
［位　置］　調査区中央部のO－29グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸1m、短軸85cmのほぼ円形で、深さは23cm、底面は平坦である。
［堆積土］　黒褐色土層のみである。
［出土遺物］覆土から土器の破片が出土している。

第32号土坑（図7・13）
［位　置］　調査区中央部のN－29グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸80cm、短軸70cmのほぼ円形で、深さは18cm、底面は平坦である。
［堆積土］　2層に分層される。
［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第33号土坑（図7）
［位　置］　調査区中央部のQ－30グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸90cm、短軸70cmのほぼ円形で、深さは8cmで、底面にやや起伏がみられる。
［堆積土］　3層に分層され、第3層に炭化物が多く含まれる。
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第35号土坑（図8）
［位　置］　調査区中央部のM－33グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸1m50cm、短軸82cmの楕円形で東側に30cmほどの段をもつ、深さは45cm、底面にやや起伏がみられる。
［堆積土］　黒褐色土層のみである。
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第36号土坑（図10）
［位　置］　調査区中央部のM－31・32グリッドに位置する。第58号土坑と重複し、本土坑が新しい。

［平面形・規模］　長軸1m24cm、短軸90cmの楕円形で、深さは38cm、底面に起伏がみられる。
［堆積土］　２層に分層される。
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第37号土坑（図10・13）
［位　置］　調査区中央部のM－31グリッドに位置する。
［平面形・規模］　断面形がフラスコ状で、開口部直径80cm、坑底部直径75cmのほぼ円形で、深さは48cm、底面にやや起伏がみられる。
［推積土］　３層に分層される。
［出土遺物］　覆土から土器の底部破片が出土している。

第38号土坑（図８・図13）
［位　置］　調査区中央部のM－30グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸1m12cm、短軸85cmの楕円形で、深さは30cm、底面はやや起伏がみられる。
［堆積土］　３層に分層される。
［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第39号土坑（図８）
［位　置］　調査区中央部のO・N－32グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸1m6cm、短軸74cmの楕円形で、深さは10cm、底面はやや起伏がみられる。
［堆積土］　２層に分層される。
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第40号土坑（図８）
［位　置］　調査区中央部のN－32グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸88cm、短軸58cmの楕円形で、深さは63cm、底面はやや起伏があり、北側に深さ60cmのピットがみられる。
［堆積土］　２層に分層される。
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第42号土坑（図８・14）
［位　置］　調査区東側のS・T－20グリッドに位置する。
［平面形・規模］　長軸1m78cm、短軸1m20cmの楕円形で、底面はやや内側に入り込むが平坦で、深さは62cmである。
［堆積土］　５層に分層される。
［出土遺物］　覆土から土器の破片と剝片、礫が出土している。

第43号土坑（図８・14）
［位　置］　調査区東側のS－21グリッドに位置する。
［平面形・規模］　西側が調査区域外にかかるため調査部分から推定して平面形は楕円形、深さは36cm、底面はやや起伏がみられる。
［堆積土］　黒褐色土の層のみである。
［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第44号土坑（図８・14）

［位　置］　調査区東側のT－21グリッドに位置する。

［平面形・規模］　西側が調査区域外にかかるため平面形は不明である。調査部分の底面は平坦で、深さは58cmである。

［堆積土］　3層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第45号土坑（図9）

［位　置］　調査区東側のU－21グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸83cm、短軸60cmの楕円形で、深さは10cm、底面はやや起伏がみられる。

［堆積土］　黒褐色土の層のみである。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第46号土坑（図9）

［位　置］　調査区東側のU－20グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸80cm、短軸57cmの楕円形で、深さは25cm、底面はやや起伏がみられる。

［堆積土］　2層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第47号土坑（図9）

［位　置］　調査区東側のV・W－21グリッドに位置する。

［平面形・規模］　断面形がフラスコ状で、開口部直径1m18cm、坑底部直径1m28cmのほぼ円形で、深さは28cm、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］　2層に分層される。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第48号土坑（図9・14）

［位　置］　調査区東側のW－21グリッドに位置する。

［平面形・規模］　断面形がフラスコ状で、開口部直径74cm、坑底部直径1m5cmのほぼ円形で、深さは53cm、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］　3層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片と礫が出土している。

第50号土坑（図9）

［位　置］　調査区東側のW－20グリッドに位置する。

［平面形・規模］　直径約95cmの円形で、深さは32cm、底面はやや起伏があり、北側にピット（深さ5cm）が2基みられる。

［堆積土］　褐色土の層のみである。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第51号土坑（図9・14）

［位　置］　調査区東側のW－20グリッドに位置する。

［平面形・規模］　直径約80cmのほぼ円形で、深さは30cmで、底面は平坦である。

［堆積土］　暗褐色土の層のみである。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第52号土坑（図９）

［位　置］　調査区中央部のＯ－29グリッドに位置する。

［平面形・規模］　西側部分がトレンチによって切られているため平面形は不明である。調査部分の深さは18cm、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］　黒褐色土の層のみである。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第53号土坑（図９・14）

［位　置］　調査区中央部のＯ－28グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸96cm、短軸70cmの楕円形で、深さは25cm、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］　３層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第54号土坑（図10）

［位　置］　調査区中央部のＭ－31に位置する。

［平面形・規模］　直径約70cmの円形で、深さは58cm、底面にやや起伏がみられる。

［堆積土］　褐色土の層のみである。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

第55号土坑（図10・14）

［位　置］　調査区中央部Ｌ・Ｍ－32グリッドに位置する。第16号・第17号土坑と重複し、本土坑がいずれの土坑より古い。

［平面形・規模］　直径約1m30cmの円形で、深さは22cm、底面はやや起伏がみられる。

［堆積土］　２層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土器の破片が出土している。

第56号土坑（図10）

［位　置］　調査区中央部のＭ－37グリッドに位置する。

［平面形・規模］　直径約1mのほぼ円形で、深さは16cm、底面はやや起伏がみられる。

［堆積土］　褐色土の層のみである。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

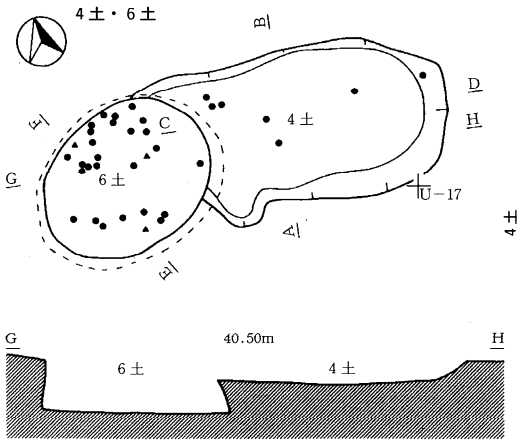
第58号土坑（図10）

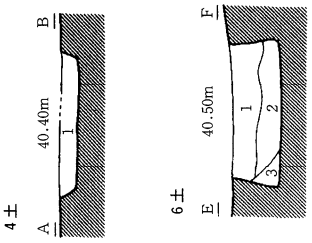
［位　置］　調査区中央部のＭ－32グリッドに位置する。第17号・第36号土坑と重複し、本土坑がいずれの土坑より古い。

［平面形・規模］　重複しているが残存部分から長軸1m10cm、短軸87cmの楕円形で、深さは16cm、底面はやや起伏がみられる。

［堆積土］　暗褐色土の層のみである。

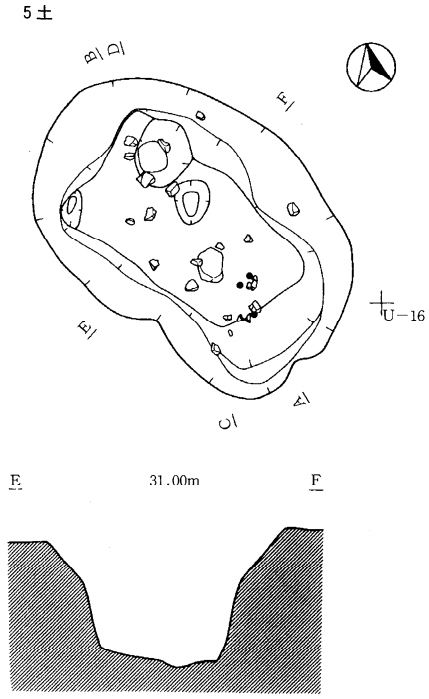
［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

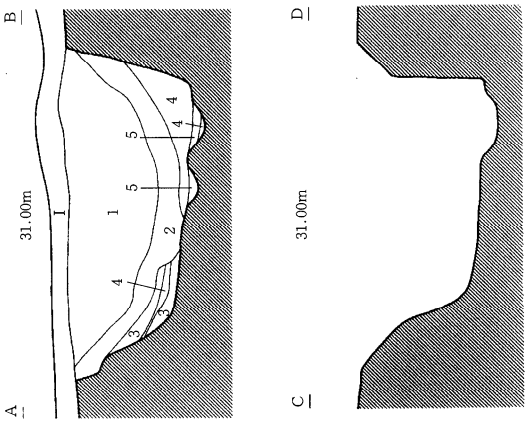




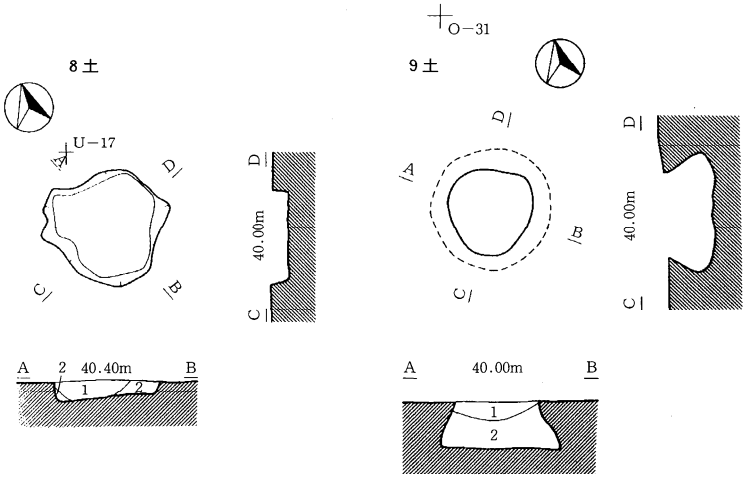
第4号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物微量
黒褐色土(10YR2/2)混入

第6号土坑
第1層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量　炭化物・焼土粒極微量　L.B.微量
暗褐色土(10YR3/3)混入
第2層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量　炭化物微量　焼土粒極微量
黒褐色土(10YR3/2)混入
第3層　褐色土　10YR4/6　ローム粒・炭化物極微量
暗褐色土(10YR3/4)混入





第5号土坑
第1層　黒褐色土 10YR2/2　ローム粒・炭化物微量　焼土粒極微量
第2層　黒褐色土 10YR3/2　ローム粒中量　炭化物極微量　焼土粒微量
第3層　褐色土　10YR4/4　黒色土(10YR2/1)少量混入　小礫混入
第4層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量
第5層　褐色土　10YR4/6　ローム層

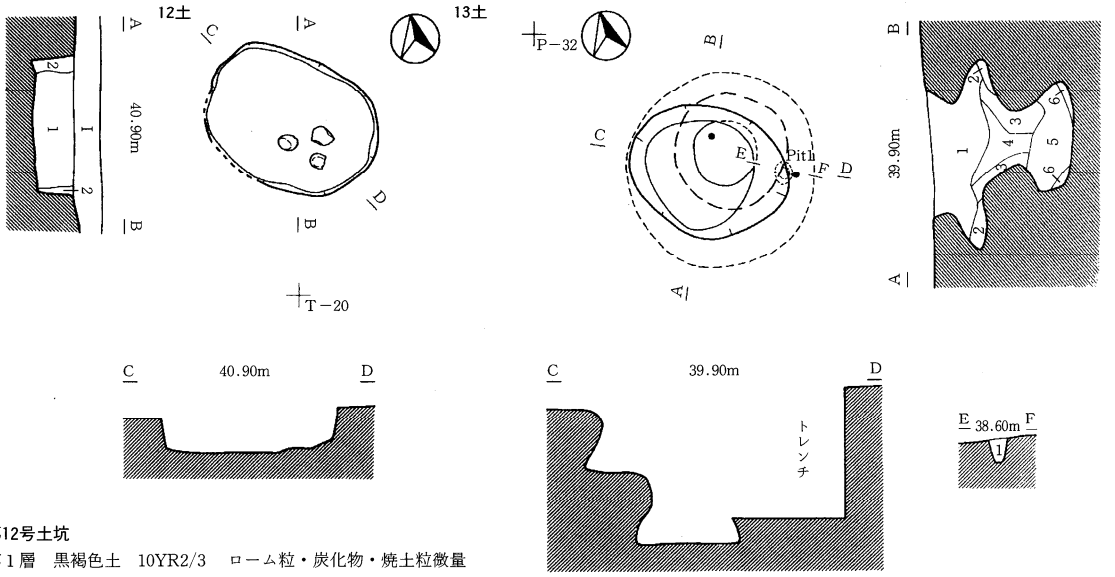


第8号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
ローム粒微量　黒褐色土(10YR2/2)混入
第2層　褐色土　10YR4/6
ローム粒極微量　暗褐色土(10YR3/4)混入

第9号土坑
第1層　暗褐色土　10YR2/3
ローム粒・炭化物・L.B.微量
第2層　褐色土　10YR4/4
ローム粒少量

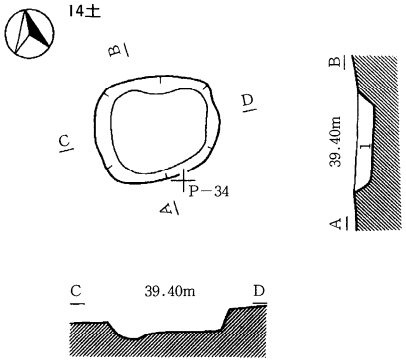
0　2m

図4　第4号・第5号・第6号・第8号・第9号土坑

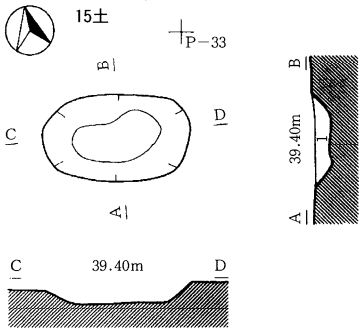


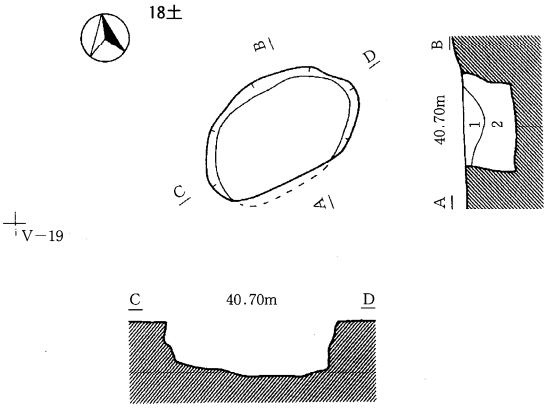
第12号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物微量

第13号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物少量
第２層　にぶい黄褐色土　10YR6/4　粘土質土　ローム粒・炭化物微量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物微量
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物微量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物・Ｌ.Ｂ.微量
第６層　褐色土　10YR4/4　ローム粒・Ｌ.Ｂ.少量
Pit1
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量　炭化物少量



第14号土坑
第１層　褐色土　10YR4/4　ローム粒・Ｌ.Ｂ.微量
黒褐色土(10YR2/2)混入



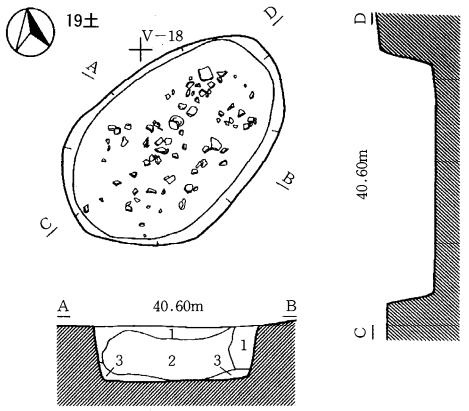


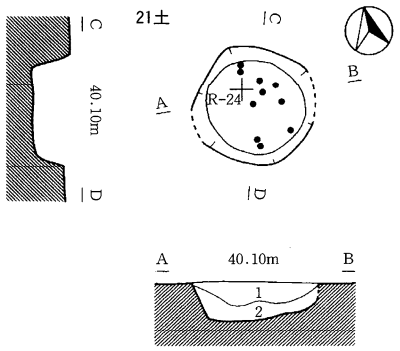
第15号土坑
第１層　褐色土　10YR4/4　ローム粒・Ｌ.Ｂ.微量
黒褐色土(10YR2/2)混入

第18号土坑
第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒・炭化物・焼土粒微量

0　2m

図５　第12号・第13号・第14号・第15号・第18号土坑



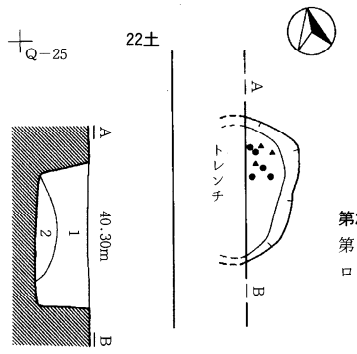


第19号土坑

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量　炭化物少量　焼土粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物少量　焼土粒微量
第３層　褐色土　10YR4/6　炭化物少量
黒褐色土(10YR2/3)混入

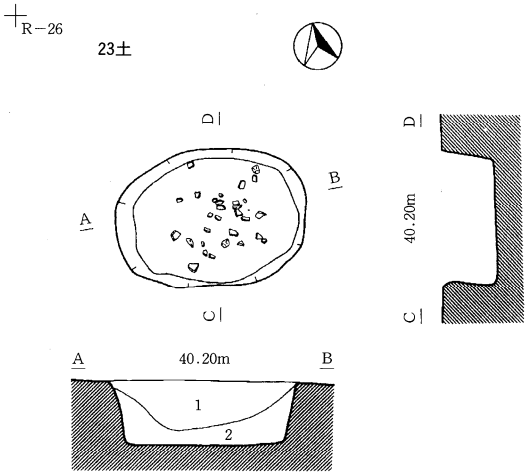
第21号土坑

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR2/3　ローム粒・Ｌ.Ｂ.微量



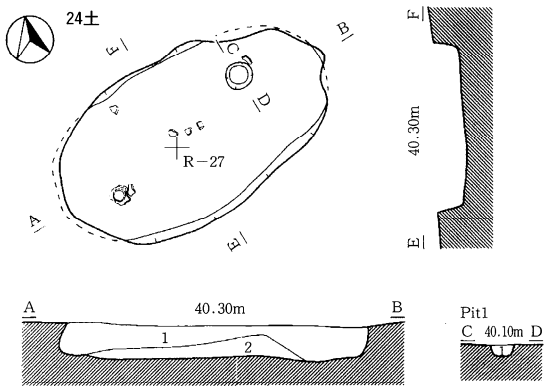
第22号土坑

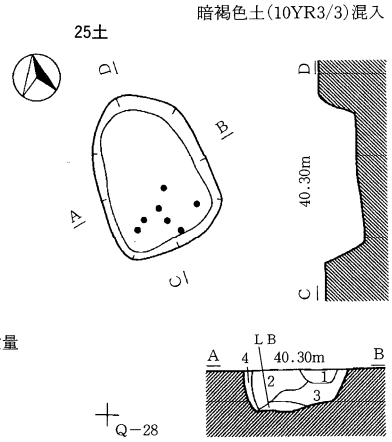
第１層　暗褐色土　10YR3/3
ローム粒・炭化物微量



第23号土坑

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物少量　焼土粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・焼土粒極微量
暗褐色土(10YR3/3)混入





第24号土坑

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物少量　焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量　炭化物少量　焼土粒・Ｌ.Ｂ.微量

Pit1

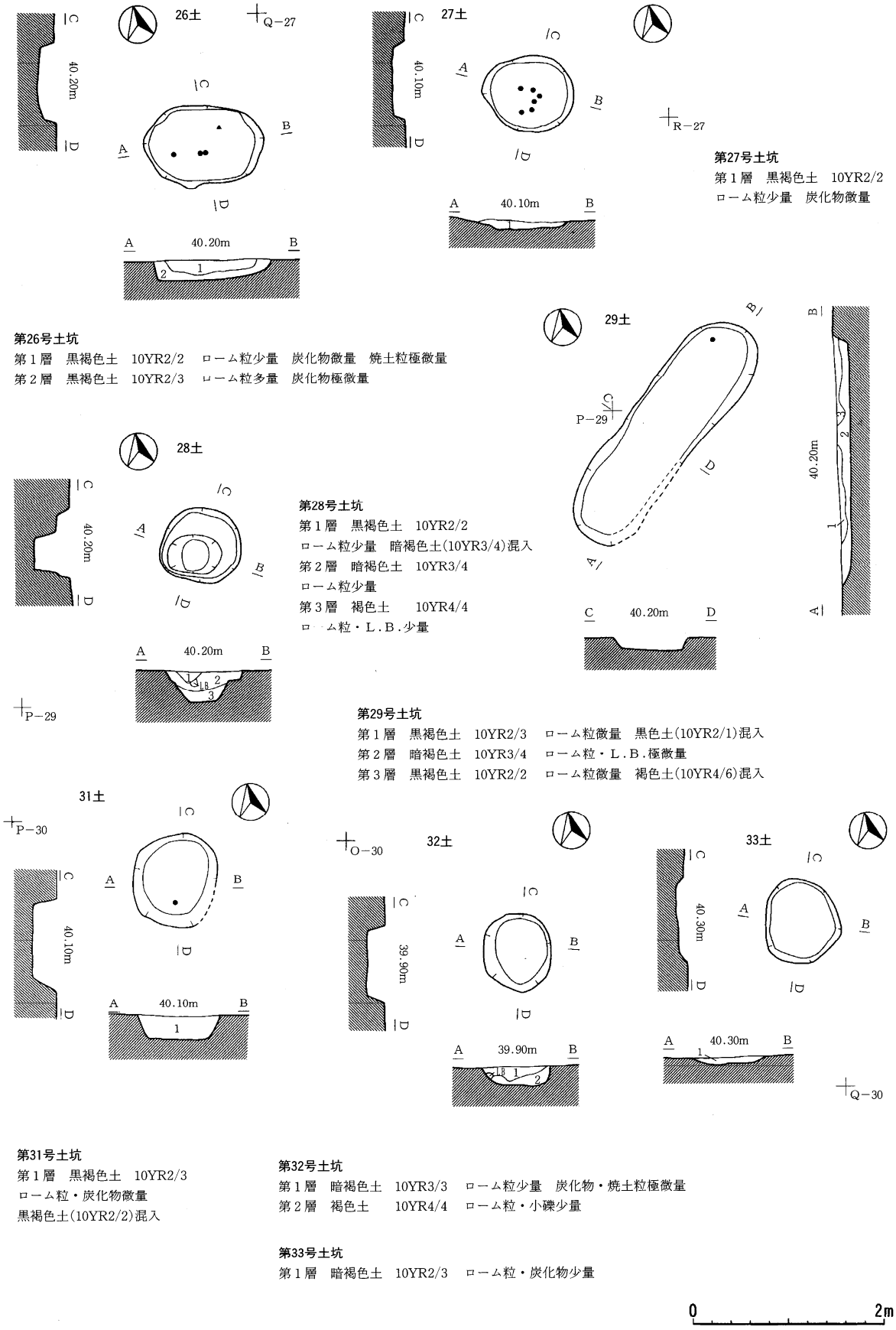
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒極微量

第25号土坑

第１層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量　炭化物微量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量　Ｌ.Ｂ.少量
第４層　褐色土　10YR4/4　ローム粒微量

0　2m

図６　第19号・第21号・第22号・第23号・第24号・第25号土坑



第27号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2
ローム粒少量　炭化物微量

第26号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量　炭化物微量　焼土粒極微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒多量　炭化物極微量

第28号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2
ローム粒少量　暗褐色土(10YR3/4)混入
第２層　暗褐色土　10YR3/4
ローム粒少量
第３層　褐色土　10YR4/4
ローム粒・Ｌ.Ｂ.少量

第29号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量　黒色土(10YR2/1)混入
第２層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒・Ｌ.Ｂ.極微量
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量　褐色土(10YR4/6)混入

第31号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/3
ローム粒・炭化物微量
黒褐色土(10YR2/2)混入

第32号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物・焼土粒極微量
第２層　褐色土　10YR4/4　ローム粒・小礫少量

第33号土坑
第１層　暗褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物少量

図７　第26号・第27号・第28号・第29号・第31号・第32号・第33号土坑

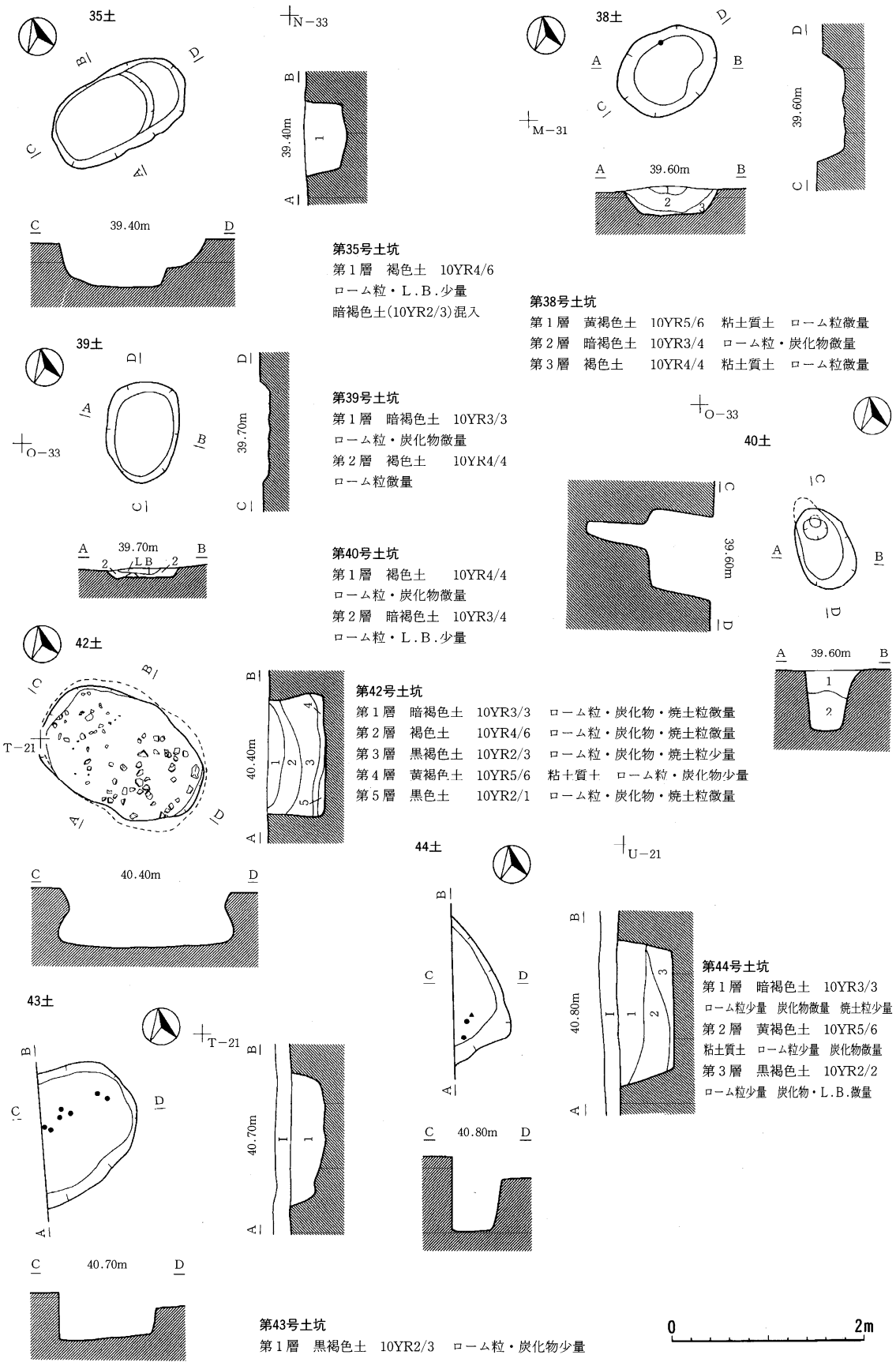
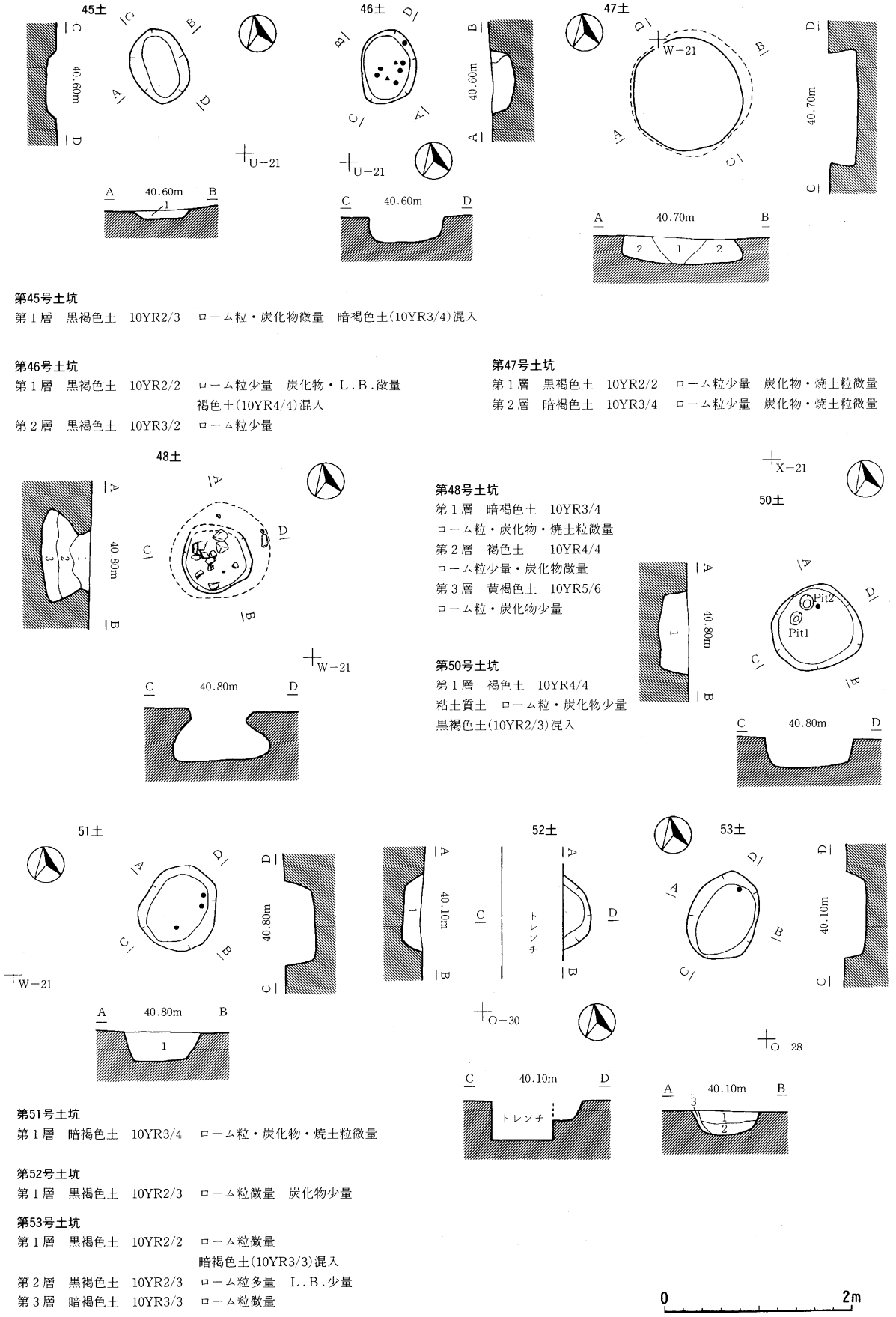


図８　第35号・第38号・第39号・第40号・第42号・第43号・第44号土坑



第45号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物微量　暗褐色土(10YR3/4)混入

第46号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量　炭化物・L.B.微量
褐色土(10YR4/4)混入
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量

第47号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量

第48号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/4
ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層　褐色土　10YR4/4
ローム粒少量・炭化物微量
第３層　黄褐色土　10YR5/6
ローム粒・炭化物少量

第50号土坑
第１層　褐色土　10YR4/4
粘土質土　ローム粒・炭化物少量
黒褐色土(10YR2/3)混入

第51号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒・炭化物・焼土粒微量

第52号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量　炭化物少量

第53号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量
暗褐色土(10YR3/3)混入
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒多量　L.B.少量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量

図９　第45号・第46号・第47号・第48号・第50号・第51号・第52号・第53号土坑

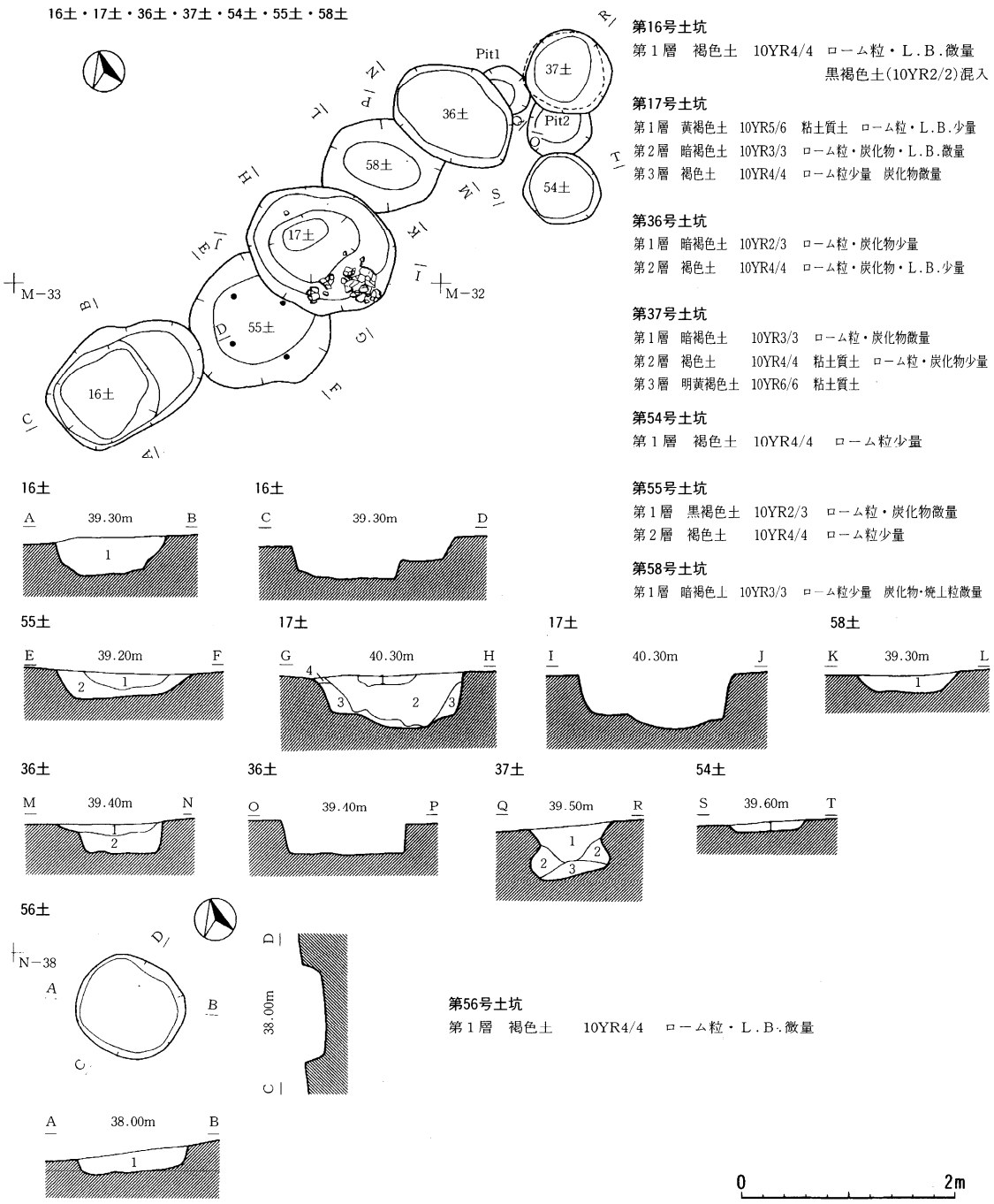


図10 第16号・第17号・第36号・第37号・第54号・第55号・第56号・第58号土坑

2　掘立柱建物跡

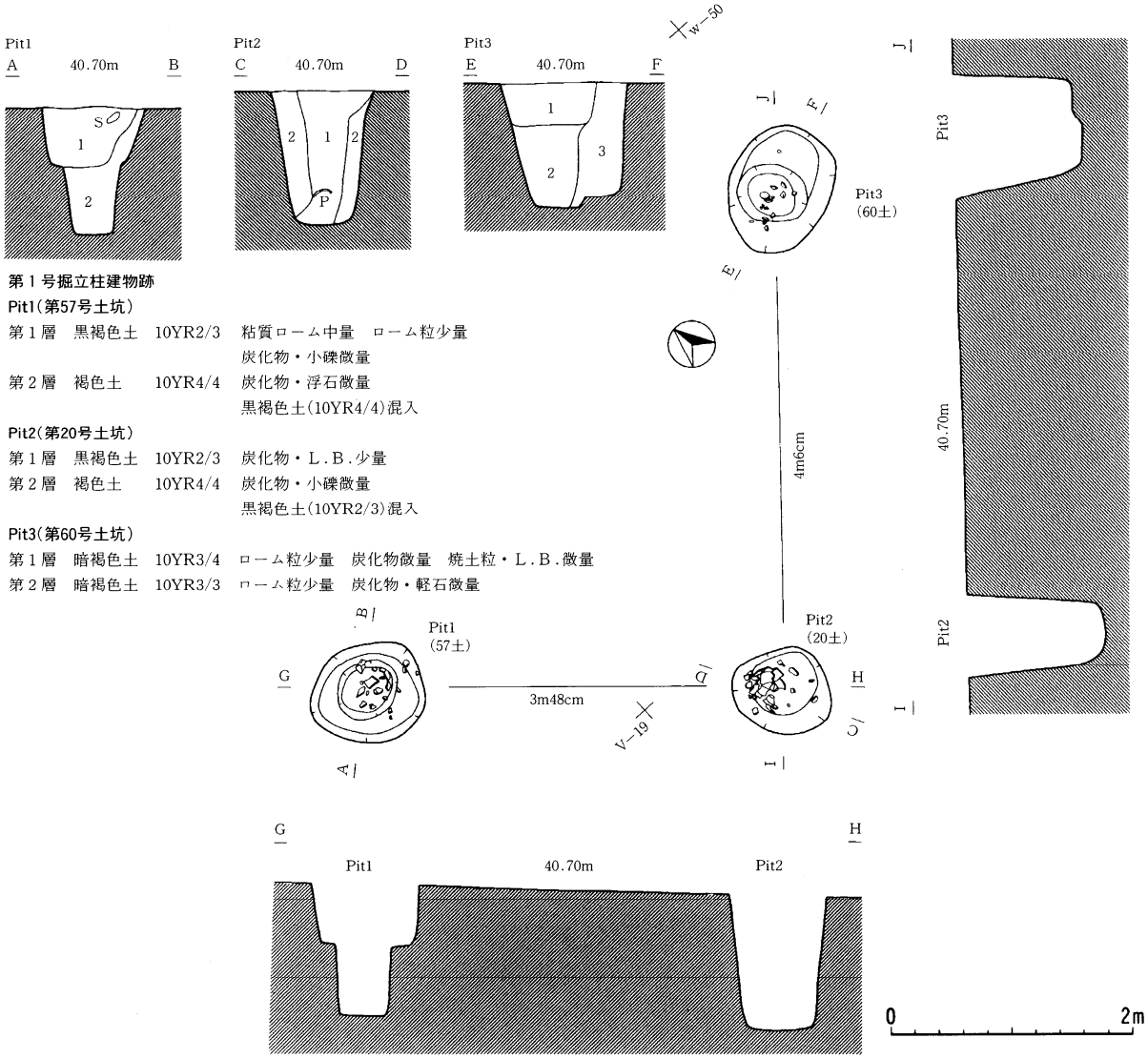
第１号掘立柱建物跡（図11・14・15）（旧第20号土坑・第57号土坑・第60号土坑）

［位　置］　調査区東側Ｕ－18，Ｖ－17～19グリッドに位置する。

［平面形・規模］　北側の柱跡は調査区域外のため確認できなっかたが、調査した３基の柱跡から１間×１間の建物跡である。柱間はピット１（第57号土坑）とピット２（第20号土坑）が3m48cm、ピット２とピット３（第60号土坑）が4m6cmで、平面形は長方形である。検出されたピットの平面形は、やや楕円形で、それぞれの柱穴の規模と深さは、ピット１が長軸95cm・短軸83cm・深さ1m10cm、ピット２が長軸85cm・短軸75cm・深さ1m10cm、ピット３が長軸1m5cm・短軸83cm・深さ1mである。

［堆積土］　いずれのピットも炭化物が含まれている。

［出土遺物］　それぞれのピットから土器が出土している。



第１号掘立柱建物跡

Pit1（第57号土坑）

第１層　黒褐色土　10YR2/3　粘質ローム中量　ローム粒少量
炭化物・小礫微量

第２層　褐色土　10YR4/4　炭化物・浮石微量
黒褐色土(10YR4/4)混入

Pit2（第20号土坑）

第１層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・Ｌ.Ｂ.少量

第２層　褐色土　10YR4/4　炭化物・小礫微量
黒褐色土(10YR2/3)混入

Pit3（第60号土坑）

第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量　炭化物微量　焼土粒・Ｌ.Ｂ.微量

第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物・軽石微量

図11　第１号堀立柱建物跡

第2節　出土遺物

出土した遺物は、平成11年度の調査で、段ボール箱に63箱分出土した。
そのうち大部分が縄文時代後期と考えられる遺物である。

1　土器（図12～17）

土器の分類にあたっては、次の通り第Ⅰ～Ⅶ群に分類した。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期に属する土器
第Ⅱ群土器　縄文時代前期に属する土器
第Ⅲ群土器　縄文時代中期に属する土器
第Ⅳ群土器　縄文時代後期に属する土器
　1類　撚糸圧痕・粘土帯を用いるもの、粘土帯の上面の圧痕をもつもの
　2類　磨消縄文を用いるもの、方形区画文をもつもの
　3類　地縄文に渦巻文等を施文するもの
　4類　縦位・横位方向に展開する文様をもつもの
　5類　入組文などを多用するもの
第Ⅴ群土器　縄文時代晩期に属する土器
第Ⅵ群土器　弥生時代・続縄文時代に属する土器
第Ⅶ群土器　平安時代に属する土器

2　石器（図18～20図）

石器の分類にあたっては剝片石器と礫石器に分類しそれぞれ細分した。

1石鏃　Ⅰ群　無形石鏃　a類　凹基（基部に抉りの部分が認められるもの）
　　b類　円基（基部の両端が膨らむもの）
　　c類　平基（基部が直線的なもの）
　　Ⅱ群　有茎石鏃　a類　凸基（基部がY字状を呈するもの）
　　b類　平基（基部が直線的なもの）
　　c類　柳葉形（鏃身が全体的に薄い）
2石錐　Ⅰ群　基部が張り出し、錐部とつまみ部の区別が明瞭なもの
　　Ⅱ群　側縁が膨らみ棒状のもの
3石匙　柄の主軸が刃部と平行するもの（縦型石匙）
4箆状石器　側縁が外湾しつつ開き、全体が楕円形に近い形態をもつ
5不定形石器　Ⅰ群　長軸に対し平行な刃部を持ち、削器的な使われ方
　　Ⅱ群　側縁に弧状の刃部を持ち、掻器的な使われ方
　　Ⅲ群　長軸に対し直行な刃部を持ち、掻器的な使われ方
6磨製石斧　Ⅰ群　二次加工痕（擦り、敲き）がみられない完形品及び欠損品
　　Ⅱ群　擦りや敲きによる二次加工痕が認められ、再利用したと考えられるもの
7石錘　Ⅰ群　扁平な礫の長軸に対し両端を打ち欠くもの
　　a類　打欠き痕のみを持つもの
　　b類　打欠き痕以外に擦りや敲打痕を持ち、敲磨器から転用されたと考えられるもの

II群　扁平な礫の長軸及び短軸の両端、両側を打ち欠くもの

a類　打欠き痕のみを持つもの

b類　打欠き痕以外に擦りや敲打痕を持ち、敲磨器から転用されたと考えられるもの

III群　打ち欠き痕が１ヶ所しか確認できず、全体の形状が不明なもの

８敲磨器類　I群　主要痕跡が擦痕で平坦面を形成しているもの

II群　主要痕跡が敲打痕のもの及び凹み敲打痕を持つもの

a類　平坦面を機能面としているもの

b類　端部、側縁を機能面としているもの

c類　平坦面及び端部、側縁を機能面としているもの

d類　球状のもの

III群　複合痕を有するもの

９砥石　I群　柱状で断面が面取りされているもの

II群　U字状の断面を持つもの

10軽石　I群　調整（擦り）によって面取りされているもの

II群　調整面が認められないもの

３　土製品・石製品（図21）

出土した土製品は、９点で、土偶、鐸型土製品、土玉、円盤状土製品などに、また石製品は７点で、硬玉製垂飾品、石剣、円盤状石製品に分けられ、各器種の特徴を記載する。

土偶（図21－222）頭部と脚部が欠損しており、両肩からわき腹にかけて貫通孔がみられる。

鐸型土製品（図21－223・224）２点出土した。いずれも欠損品である。

土玉（図21－227）やや丸みをもったものである。

円盤状土製品（図21－228）沈線文の土器片を利用し、周囲を打欠いて円盤状にしている。

不明土製品（図21－225・226・230）225は棒状、230は両面に刺突痕がみられる。

硬玉製垂飾品（図21－231）形態は楕円形で貫通孔を持つ。

石剣（図21－233）石剣の体部と考えられ、頭部及び先端部を欠損している。側縁に溝を持つ。

円盤状石製品（図21－234）周縁を大小の剝離によって調整されている。

不明石製品（図21－232・235～237）232は板状の凝灰岩で、両面に深い凹みを持つ。237は側縁部を一周するように溝を持つ。

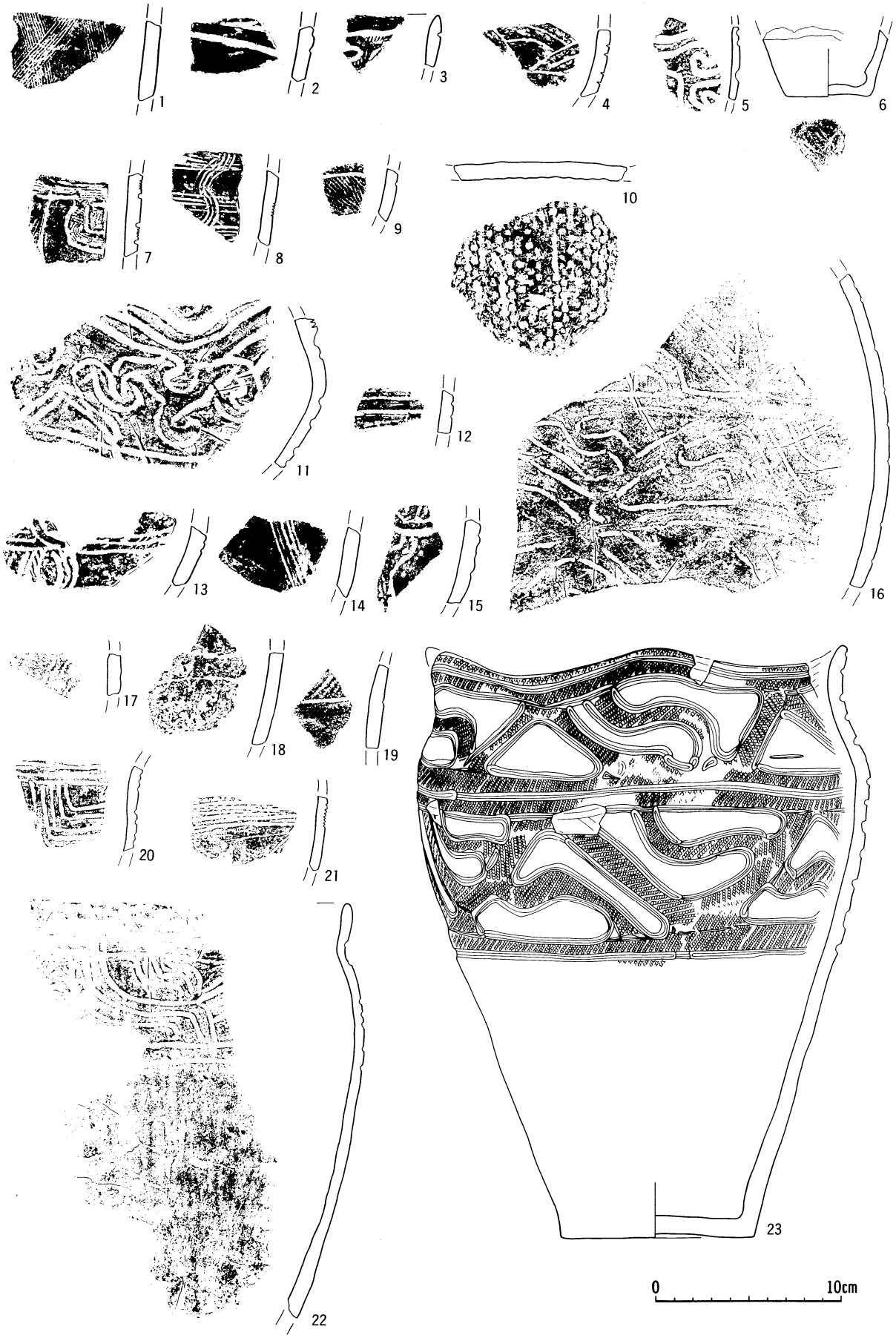


図12　土坑内出土土器(1)

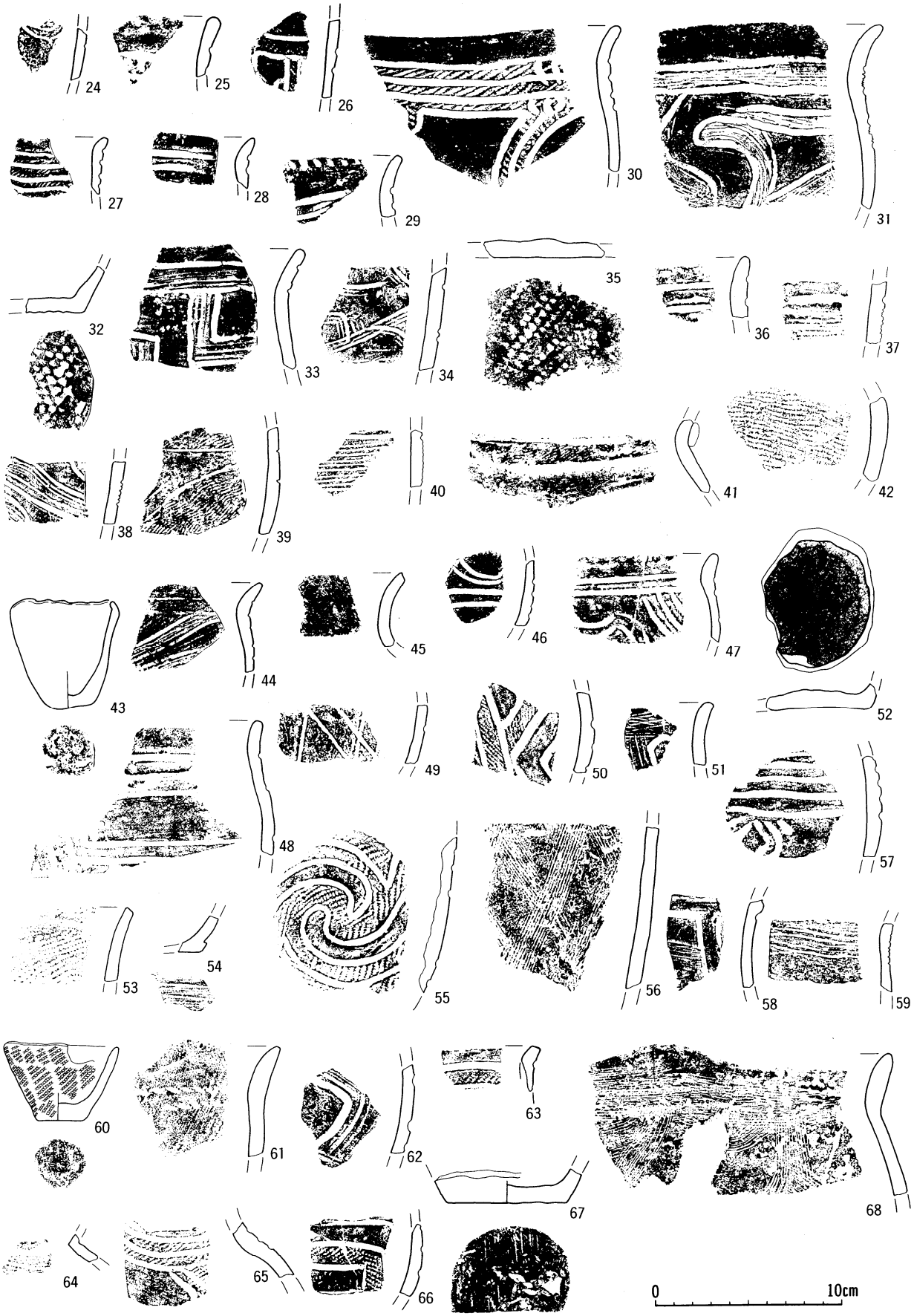


図13　土坑内出土土器(2)

図14　土坑内出土土器(3)

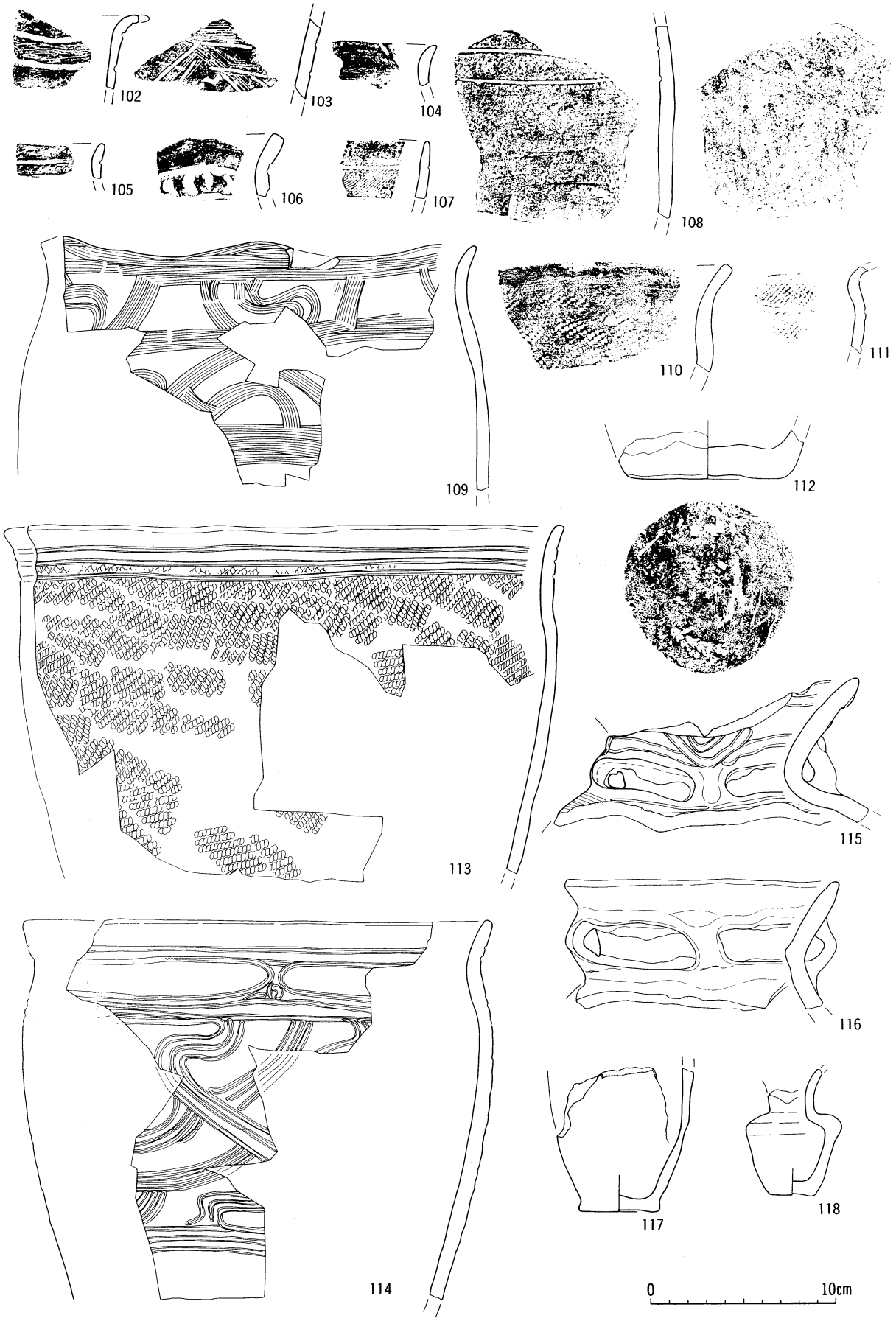


図15　掘立柱・遺構外出土土器(1)

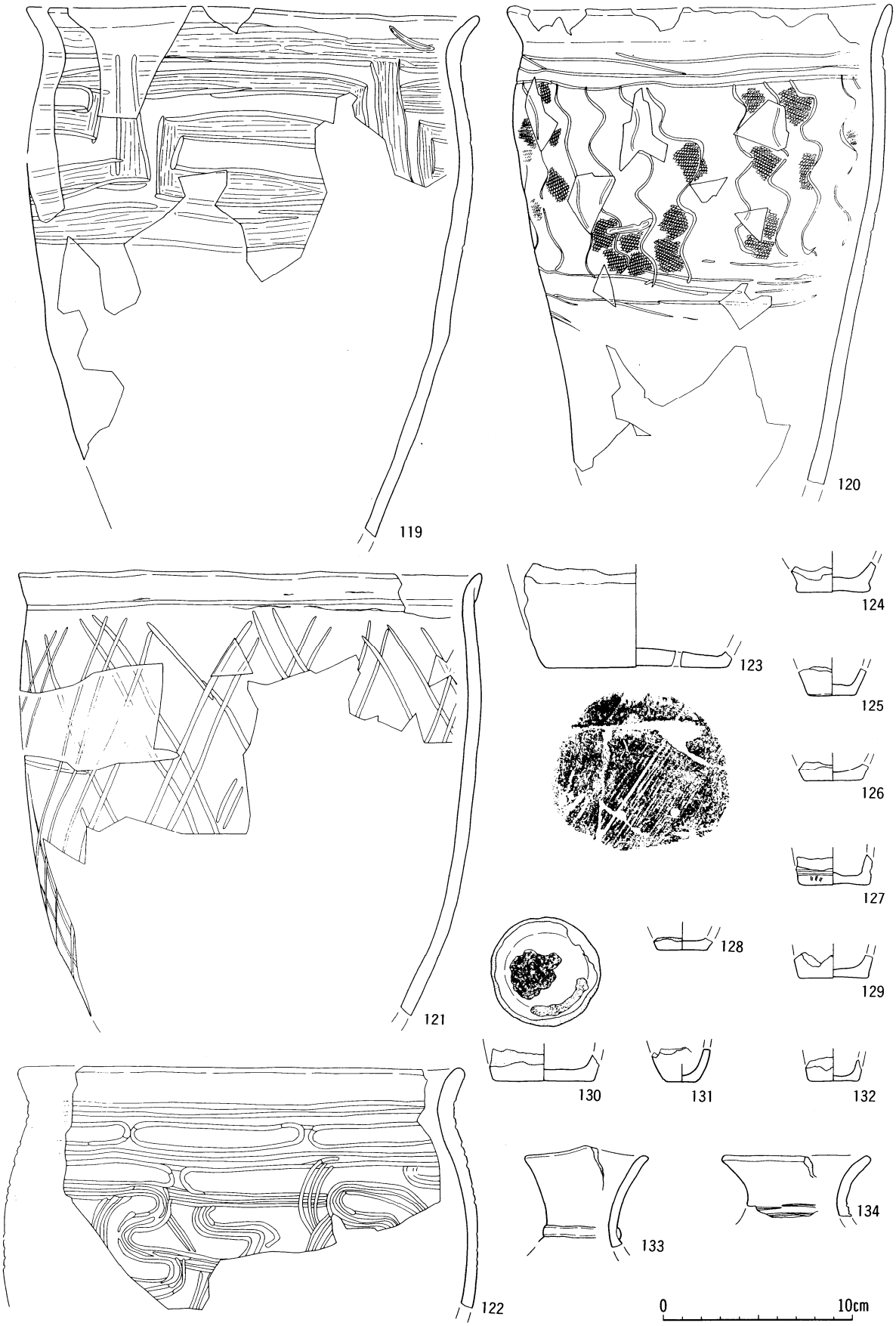


図16　遺構外出土土器(2)

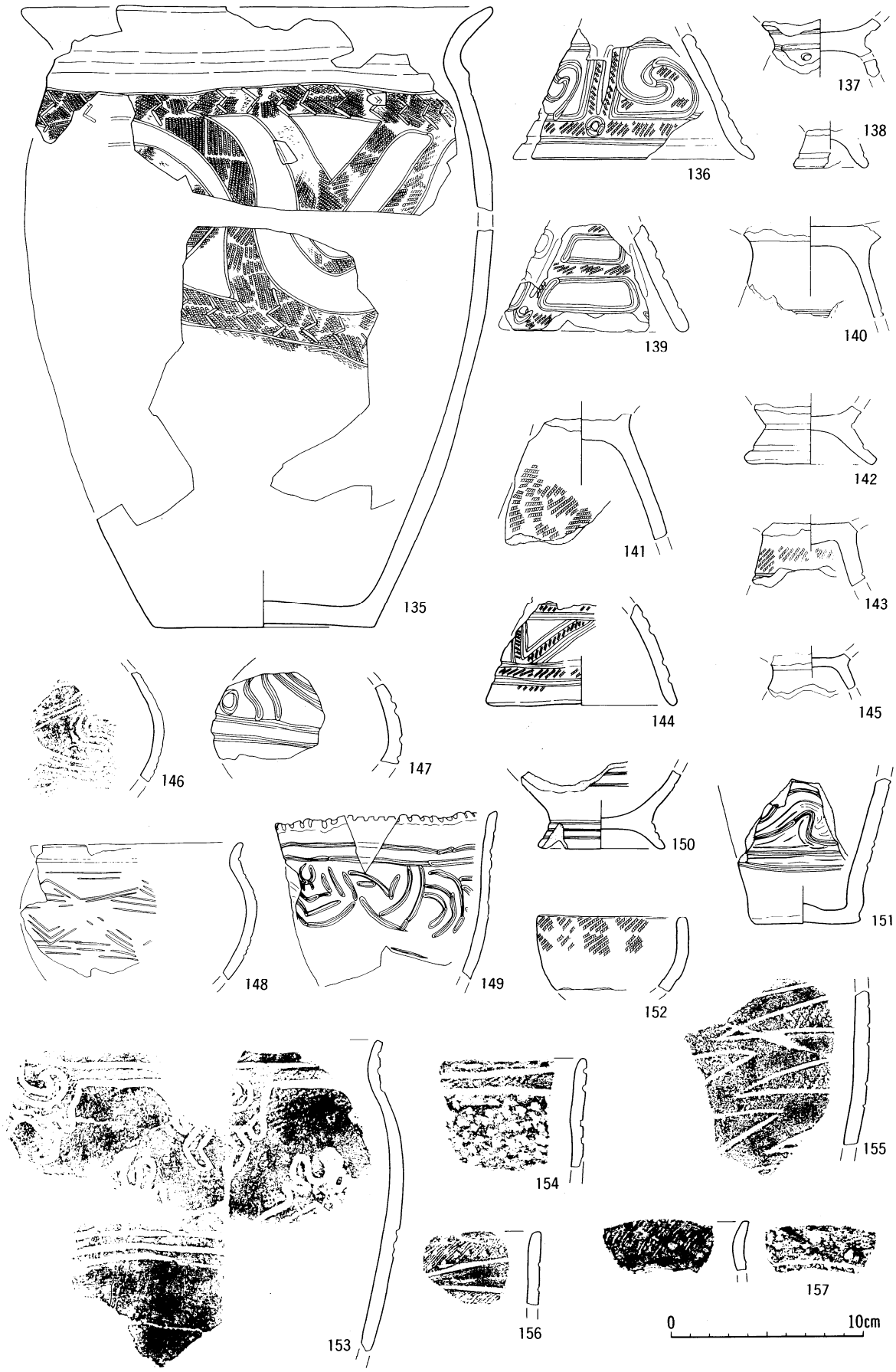


図17　遺構外出土土器(3)

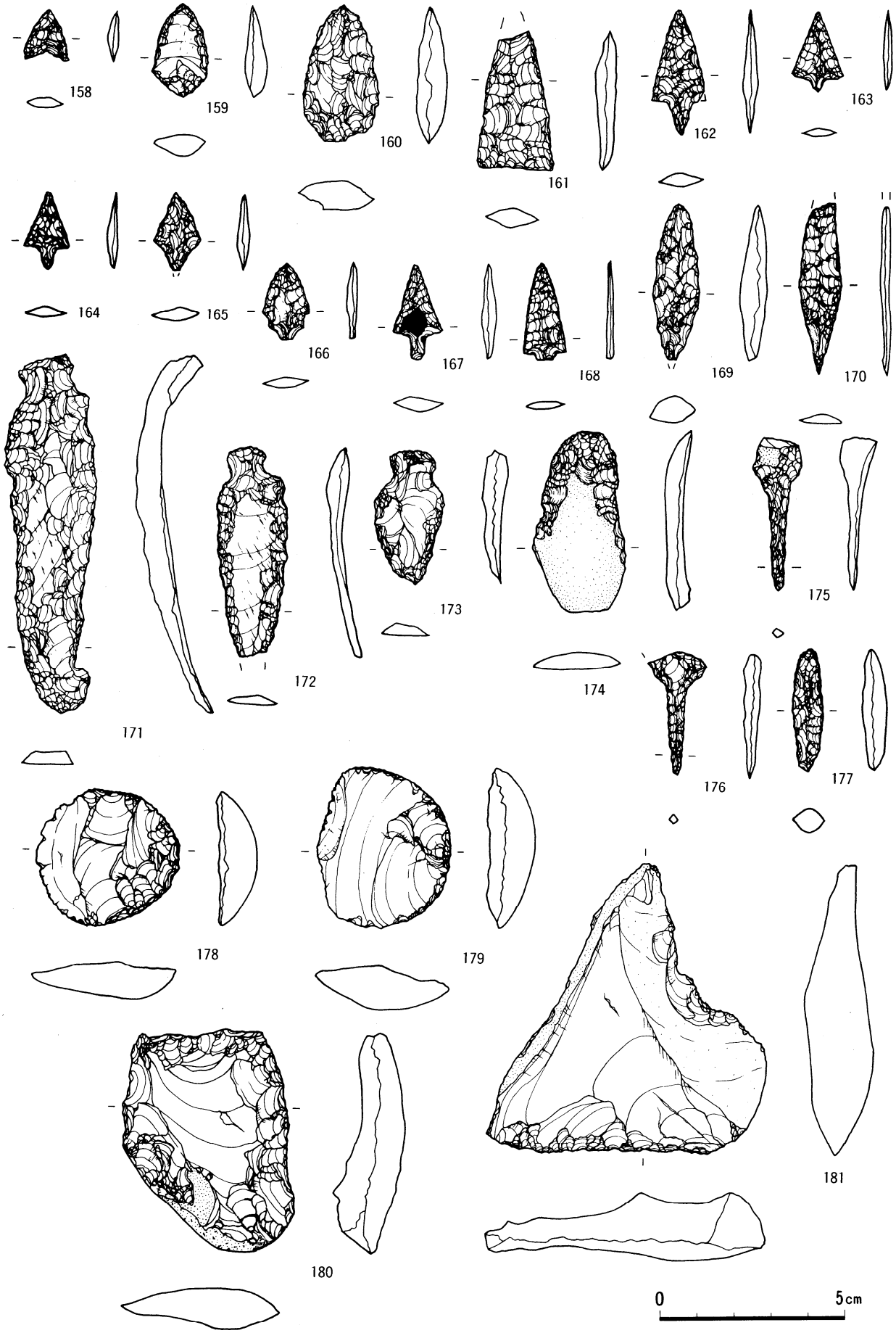


図18　土坑内・遺構外出土石器

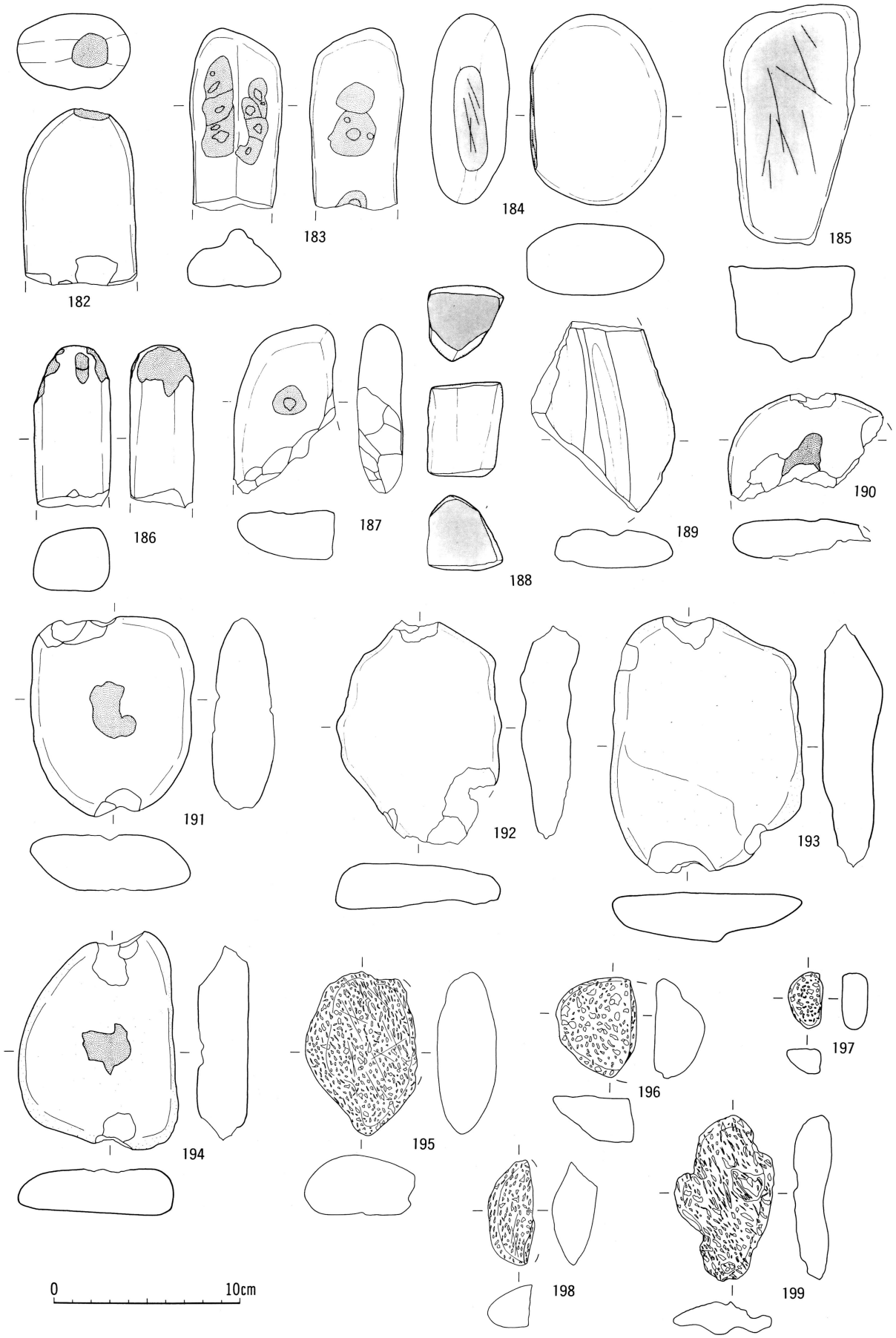

182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
0
10cm

図19　土坑内出土石器

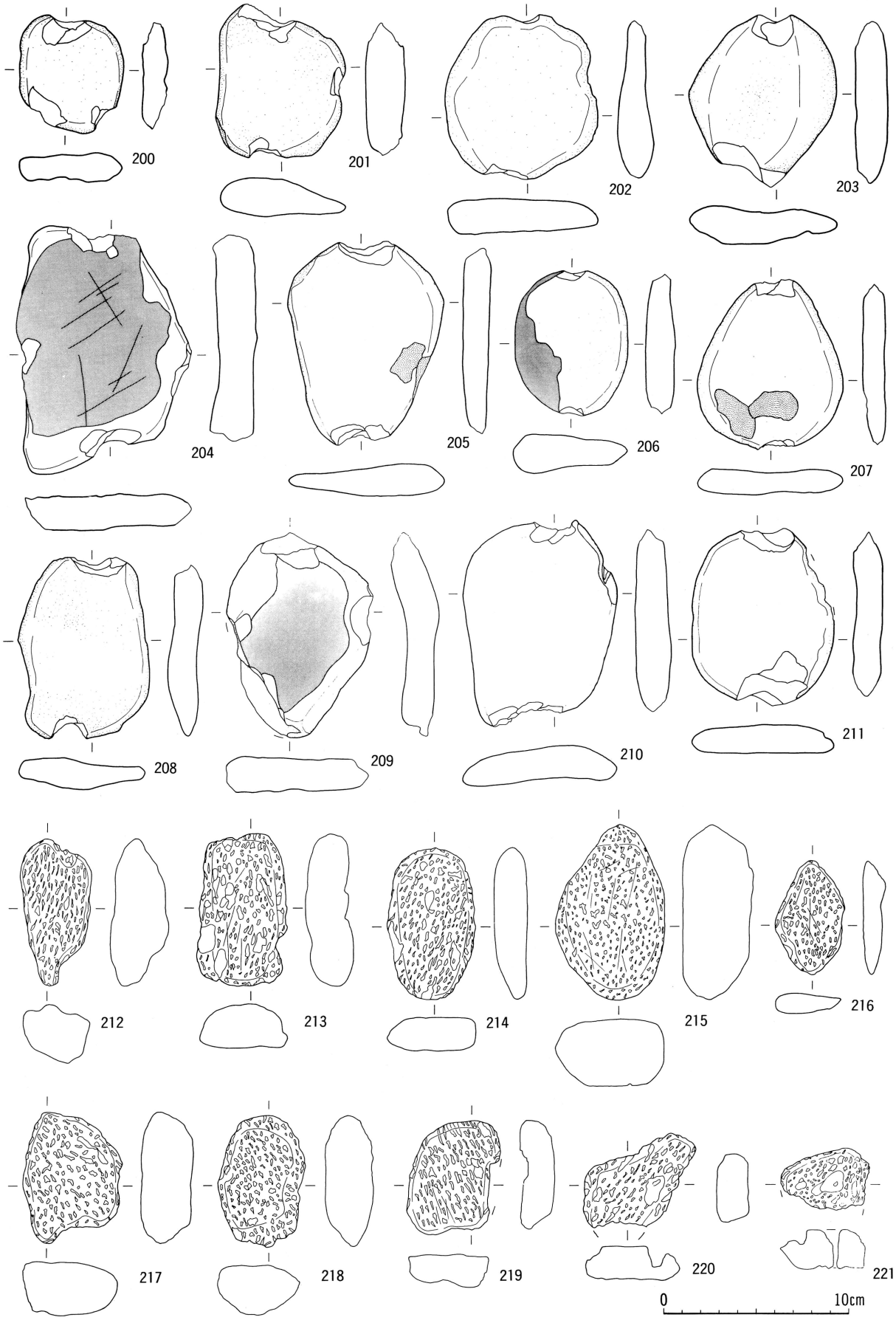

200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
0
10cm

図20　遺構外出土石器

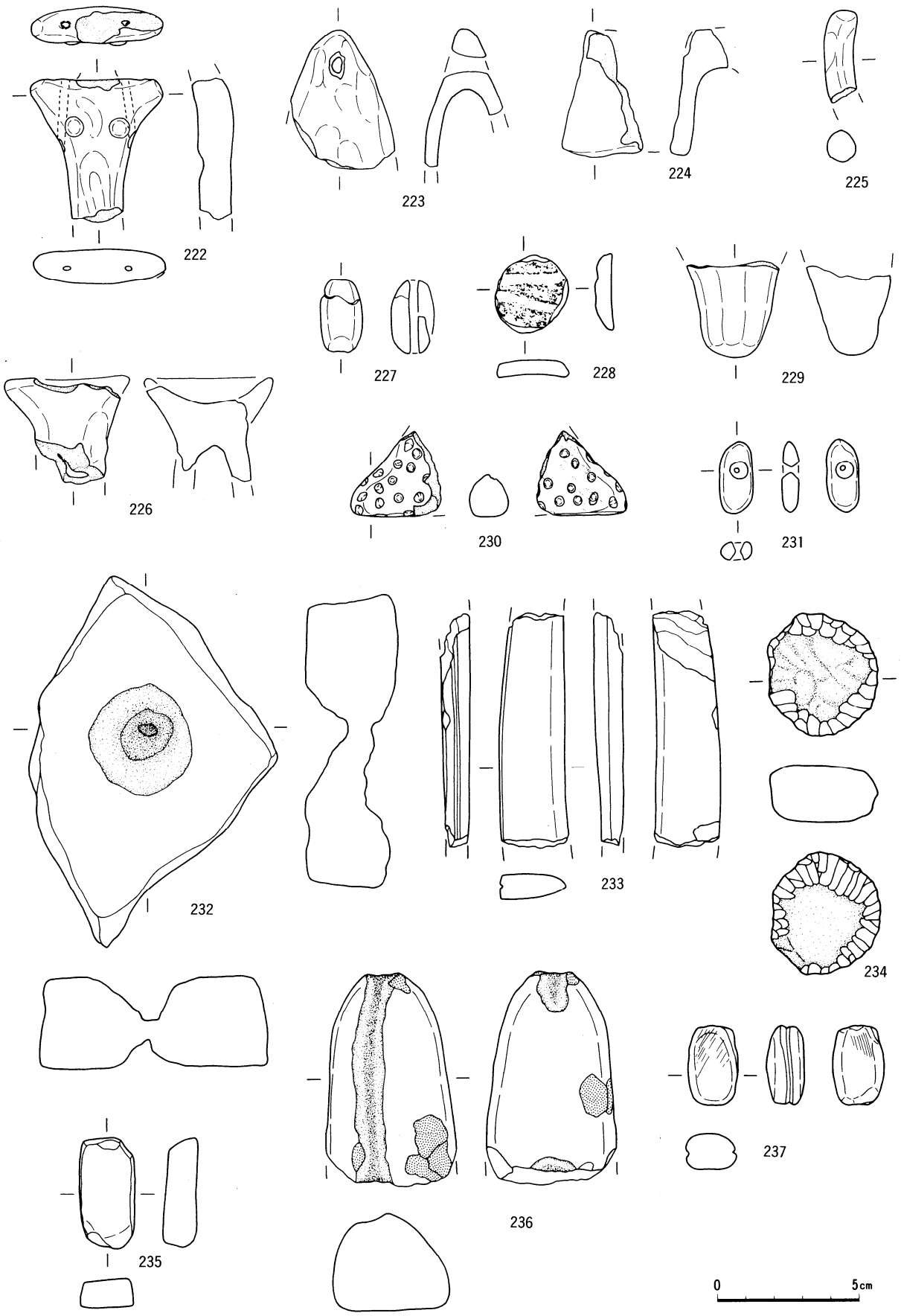


図21　遺構外出土土製品・石製品

縄文土器

図版番号	出土地・層位	器　種	部　位	文　　様　　等	分　類	備　　考
図12－1	4土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線(格子状)	Ⅳ4	P－5
2	4土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	P－3
3	4土・フク土	深鉢	口縁	沈線→L縄文→磨消	Ⅳ3	P－4
4	5土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	
5	5土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ3	
6	5土・フク土	鉢	底	底面網状痕	Ⅳ	
7	5土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線→沈線→磨消	Ⅳ2	
8	5土・フク土	深鉢	胴	平行沈線	Ⅳ	
9	6土・フク土	深鉢	胴	沈線→RL縄文	Ⅳ	P－6
10	12土・フク土	深鉢	底	底面網代痕	Ⅳ	
11	17土・1層	壷	胴	沈線、刺突	Ⅳ4	P－29
12	13土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ3	
13	12土・1層	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	
14	13土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線	Ⅳ4	
15	13土・フク土	深鉢	胴	R縄文→沈線	Ⅳ	
16	17土・1層	壷	胴	櫛歯状沈線→沈線→磨消	Ⅳ2	P－25
17	14土・フク土	深鉢	胴	LR縄文	Ⅳ	
18	15土・フク土	深鉢	胴	無文	Ⅳ	
19	16土・フク土	深鉢	胴	LR縄文→沈線	Ⅳ	
20	17土・フク土	深鉢	胴	沈線（方形区画）	Ⅳ2	P－20
21	17土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線	Ⅳ	P－15
22	17土・フク土	深鉢	口縁～胴	沈線	Ⅳ	P－1,2,4
23	17土・フク土	深鉢	完形品	波状口縁、LR充塡縄文→沈線（一部）	Ⅳ4	P－3,5～8,10,16～19
図13－24	18土・底面	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	
25	18土・フク土	深鉢	口縁	沈線、口唇部－刻目	Ⅳ	
26	19土・フク土	深鉢	胴	LR縄文→沈線→磨消	Ⅳ2	P－49
27	19土・フク土	深鉢	口縁	LR縄文→沈線	Ⅳ	
28	19土・フク土	深鉢	口縁	LR縄文→沈線	Ⅳ	
29	19土・フク土	深鉢	口縁	沈線、口唇部－刻目	Ⅳ	P－74
30	19土・フク土	深鉢	口縁	RL縄文→沈線→磨消	Ⅳ2	P－99
31	19土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	P－13,25
32	19土・フク土	深鉢	底	底面網代痕	Ⅳ	P－33
33	19土・フク土	深鉢	口縁	沈線→刺突、口唇部圧痕	Ⅳ2	P－92
34	19土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	P－18
35	21土・フク土	深鉢	底	底面網代痕	Ⅳ	P－9
36	21土・フク土	深鉢	口縁	沈線	Ⅳ	
37	21土・フク土	深鉢	口縁	沈線→櫛歯状沈線	Ⅳ	
38	22土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
39	22土・フク土	深鉢	胴	沈線→LR充塡縄文	Ⅳ	P－6
40	22土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線	Ⅳ	

図版番号	出土地・層位	器　種	部　位	文　　様　　等	分　類	備　　考
41	22土・フク土	壷	胴	粘土紐貼付→LR縄文	Ⅳ1	P－10
42	22土・フク土	深鉢	胴	LR縄文	Ⅳ	P－1
43	23土・フク土	小型土器	完形品	無文	Ⅳ	P－13,18,19
44	23土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線	Ⅳ	
45	23土・フク土	深鉢	口縁	無文	Ⅳ	P－7
46	24土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	
47	24土・フク土	深鉢	口縁	沈線、口唇部－刻目	Ⅳ	P－6
48	23土・フク土	深鉢	口縁	沈線→磨消?	Ⅳ2	
49	23土・フク土	深鉢	胴	沈線（格子状）	Ⅳ	P－25
50	24土・フク土	深鉢	胴	LR縄文→沈線→磨消縄文	Ⅳ2	
51	24土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
52	24土・フク土	鉢	底	無文、内面に漆付着	Ⅳ	P－7
53	25土・フク土	深鉢	口縁	胴部－RL縄文、口唇部－RL縄文	Ⅳ	P－1
54	25土・フク土	鉢	底	底面笹葉痕	Ⅳ	P－7
55	26土・フク土	深鉢	胴	LR縄文→沈線→磨消、内面剝落	Ⅳ3	P－5
56	26土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線（格子状）	Ⅳ4	
57	26土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	P－21
58	26土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	P－19
59	26土・フク土	深鉢	口縁	平行沈線	Ⅳ	P－6
60	26土・フク土	小型土器	完形品	RL縄文	Ⅳ	
61	27土・フク土	深鉢	口縁	R圧痕文、波状口縁	Ⅳ	P－6
62	27土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線→沈線(方形区画)	Ⅳ	
63	38土・フク土	深鉢	口縁	LR縄文→沈線	Ⅳ	
64	31土・フク土	壷	胴	沈線	Ⅳ	
65	31土・フク土	壷	胴	R縄文→沈線	Ⅳ	P－1
66	37土・フク土	深鉢	胴	沈線→LR充塡縄文	Ⅳ	
67	37土・フク土	鉢	底	底面－笹葉痕	Ⅳ	
68	38土・フク土	深鉢	口縁	波状口縁、櫛歯状口縁	Ⅳ4	
図14－69	42土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
70	42土・フク土	深鉢	口縁	LR縄文→沈線、口唇部－貼付、波状口縁	Ⅳ	P－11
71	42土・フク土	深鉢	口縁	外面－沈線、内面－RL縄文	Ⅳ	P－7
72	42土・フク土	深鉢	口縁	無文	Ⅳ	
73	42土・フク土	深鉢	口縁	沈線→LR縄文	Ⅳ	
74	42土・フク土	深鉢	口縁	R縄文→沈線	Ⅳ	
75	42土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線	Ⅳ	P－25
76	42土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	P－50
77	42土・フク土	深鉢	口縁	沈線、口唇部－刻目	Ⅳ	P－73
78	42土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
79	42土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
80	42土・フク土	深鉢	口縁	LR縄文	Ⅳ	

縄文土器

図版番号	出土地・層位	器　種	部　位	文　　様　　等	分 類	備　　考
81	42土・フク土	深鉢	胴	R縄文→沈線（方形区画）	Ⅳ２	P－6,8,59
82	42土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	P－13
83	42土・フク土	深鉢	胴	円形刺突文	Ⅳ	
84	42土・フク土	深鉢	胴	貼付→L縄文圧痕文	Ⅳ１	
85	42土・フク土	深鉢	口縁	沈線	Ⅳ	
86	43土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線、口唇部－刻目	Ⅳ	
87	43土・フク土	深鉢	口縁	R縄文→沈線	Ⅳ	P－2
88	43土・フク土	深鉢	胴	沈線	Ⅳ	P－2
89	43土・フク土	深鉢	口縁	沈線	Ⅳ	P－6　ススス状炭化物付着
90	44土・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
91	44土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線	Ⅳ	P－1
92	48土・フク土	壷	胴	貼付	Ⅳ	
93	48土・フク土	深鉢	口縁	RL縄文→管状刺突	Ⅳ	
94	51土・フク土	深鉢	胴	RL縄文→沈線、管状刺突→磨消	Ⅳ３	P－2
95	51土・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線、波状口縁	Ⅳ	P－1
96	51土・フク土	深鉢	口縁	RL縄文→沈線	Ⅳ	P－3
97	53土・フク土	壷	胴	沈線	Ⅳ	
98	55土・１層	壷	胴	沈線→RL充填縄文	Ⅳ	P－4
99	53土・フク土	壷	胴	LR縄文→沈線→磨消	Ⅳ	
100	1掘立・フク土	壷	底	R縄文→沈線	Ⅳ３	(Pit2)　P－55,56
101	1掘立・フク土	壷	胴	貼付→沈線→櫛歯状沈線	Ⅳ１	(Pit2)　P－8,12,15,18,23,26,27,29～31,36,45,46
図15-102	1掘立・フク土	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	(Pit2)　P－47
103	1掘立・フク土	深鉢	胴	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	(Pit1)　P－17
104	1掘立・フク土	深鉢	口縁	無文	Ⅳ	(Pit1)
105	1掘立・フク土	深鉢	口縁	R縄文→沈線	Ⅳ	(Pit2)
106	1掘立・フク土	深鉢	口縁	波状口縁、沈線	Ⅳ	(Pit1)
107	1掘立・フク土	深鉢	口縁	R縄文→沈線	Ⅳ	(Pit1)　P－6
108	1掘立・フク土	深鉢	胴	外面－無文、内面－沈線	Ⅳ	(Pit3)　P－9
109	R－23・Ⅱ	深鉢	口縁	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
110	1掘立・フク土	深鉢	口縁	LR縄文	Ⅳ	(Pit1)　P－21
111	1掘立・フク土	深鉢	胴	LR縄文→沈線	Ⅳ	(Pit3)　P－8
112	1掘立・フク土	深鉢	底	無文、オオバコの圧痕	Ⅳ	(Pit3)　P－14
113	R－21・Ⅱ	深鉢	口縁～胴	LR縄文→沈線（平行）	Ⅳ４	(P-3)P-3～7,10,14,15,18,20,21,25,26,30～34,36
114	Q－24・Ⅰ・Ⅱ	深鉢	口縁～胴	沈線	Ⅳ５	(P－5)　P－1,2
115	Q－23・Ⅰ	壷	口縁	貼付	Ⅳ１	
116	O－29・Ⅱ	壷	口縁	貼付	Ⅳ１	(P－15)　P－1,2
117	表採	鉢	胴～底	無文	Ⅳ	
118	N－27・Ⅱ	小型土器	完形品	無文	Ⅳ	(P－14)
図16-119	S－21・Ⅱ	深鉢	口縁～胴	櫛歯状沈線→沈線（方形区画）	Ⅳ２	
120	S－20・Ⅱ	深鉢	口縁～胴	LR縄文→沈線→一部磨消	Ⅳ２	(P－11)　P－2～9

図版番号	出土地・層位	器　種	部　位	文　　様　　等	分 類	備　　考
121	Y－22・Ⅲ上	深鉢	口縁～胴	沈線（格子状）	Ⅳ４	(P-16)P-5,7～9,21,24,26～31,33　W-21,X-20と接合
122	Y－22・Ⅲ上	深鉢	口縁	沈線	Ⅳ５	W－21と接合
123	R－23・Ⅱ	鉢	底	底面笹葉痕、貫通孔	Ⅳ	
124	Q－23・Ⅰ・Ⅱ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
125	Q－20・Ⅱ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
126	Q－24・Ⅰ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
127	Q－23・Ⅱ	小型土器	底	沈線、LR縄文	Ⅳ	
128	Q－24・Ⅱ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
129	R－23・Ⅱ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
130	R－22・Ⅱ	鉢	底	無文、内面に漆付着	Ⅳ	
131	O－29・Ⅰ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
132	R－23・Ⅱ	小型土器	底	無文	Ⅳ	
133	Q－19・Ⅰ	壷	口縁	貼付	Ⅳ	
134	O－20・Ⅰ	壷	口縁	沈線	Ⅳ	
図17-135	R－23・Ⅰ	深鉢	略完形	LR縄文→沈線	Ⅳ３	
136	Q－23・Ⅱ	台付	底	沈線→LR充填縄文　透	Ⅳ３	
137	Q－22・Ⅱ	台付	底	沈線　透	Ⅳ	
138	Q－20・Ⅱ	台付	底	沈線	Ⅳ	
139	Q－22・Ⅱ	台付	底	沈線→LR充填縄文　透	Ⅳ３	
140	O－28・Ⅱ	台付	底	沈線	Ⅳ	
141	O－28・Ⅱ	台付	底	LR縄文	Ⅳ	
142	R－22・Ⅱ	台付	底	沈線	Ⅳ	
143	O－26・Ⅰ	台付	底	沈線、LR縄文	Ⅳ	
144	S－24・Ⅰ	台付	底	LR縄文→沈線	Ⅳ３	
145	O－28・Ⅱ	台付	底	無文	Ⅳ	
146	O－25・Ⅱ	壷	胴	沈線	Ⅳ	
147	R－23・Ⅱ	壷	胴	沈線	Ⅳ	
148	T－19・Ⅱ	鉢	口縁～胴	沈線	Ⅳ４	
149	S－21・Ⅱ	鉢	口縁～胴	沈線、口唇部－刻目	Ⅳ４	
150	Q－23・Ⅱ	台付	底	沈線	Ⅳ	
151	V－20・Ⅲ上	鉢	底	櫛歯状沈線→沈線	Ⅳ	
152	P－21・Ⅰ	鉢	口縁	LR縄文	Ⅳ	
153	R－21・Ⅱ	深鉢	口縁	沈線	Ⅳ	
154	O－28・Ⅱ	深鉢	口縁	LR縄文→沈線、円形刺突	Ⅳ	
155	V－19・Ⅲ	深鉢	胴	LR縄文→沈線	Ⅳ	
156	T－18・Ⅱ	深鉢	口縁	R縄文→沈線	Ⅳ	
157	P－20・Ⅲ上	深鉢	口縁	外面－沈線、内面－LR縄文	Ⅳ	

剝片石器

図版番号	器種	出土地・層位	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	分類	備考
図18-158	石鏃	R－24・Ⅰ	1.4	1.3	0.3	0.4	玉珪頁	Ⅰa	
159	石鏃	Q－25・Ⅲ上	2.6	1.6	0.6	2.2	珪頁	Ⅰb	
160	石鏃	O－22・Ⅰ	3.8	2.1	0.8	6.1	珪頁	Ⅰb	
161	石鏃	P－23・Ⅰ	(3.8)	2.2	0.6	(3.7)	珪頁	Ⅰc	欠損
162	石鏃	P－19・Ⅰ	3.4	(1.5)	4.1	(1.0)	珪頁	Ⅱa	欠損
163	石鏃	Q－23・Ⅲ上	2.5	1.5	0.3	0.5	珪頁	Ⅱa	
164	石鏃	P－21・Ⅰ	2.1	1.3	0.3	0.5	玉珪頁	Ⅱa	
165	石鏃	O－19・Ⅰ	(2.1)	1.3	(0.7)	(0.7)	珪頁	Ⅱa	欠損
166	石鏃	P－21・Ⅰ	2.1	1.3	0.3	0.7	玉珪頁	Ⅱb	両側縁に抉り
167	石鏃	P－18・Ⅱ	2.6	1.4	0.4	0.9	玉珪頁	Ⅱb	アスファルト付着
168	石鏃	Q－23・Ⅲ上	2.7	1.3	0.2	0.6	珪頁	Ⅱb	
169	石鏃	O－21・Ⅲ上	(4.2)	1.4	0.8	(4.2)	玉珪頁	Ⅱc	欠損
170	石鏃	Q－19・Ⅱ	(4.7)	1.2	0.3	(1.7)	珪頁	Ⅱc	欠損
171	縦型石匙	N－32・Ⅰ	9.8	2.1	0.9	21.8	珪頁	－	
172	縦型石匙	L－33・Ⅰ	(5.7)	2.1	0.3	(6.3)	珪頁	－	欠損
173	縦型石匙	R－23・Ⅰ	3.7	1.9	0.6	3.8	珪頁	－	
174	石篦	Q－25・Ⅱ	5.0	2.6	0.5	9.4	玉珪頁	－	
175	石錐	R－24・Ⅱ	4.2	1.1	0.9	2.7	玉珪頁	Ⅰ	
176	石錐	Q－23・Ⅲ上	(3.4)	1.7	0.5	(1.0)	珪頁	Ⅰ	欠損
177	石錐	Q－19・Ⅲ上	3.3	0.9	0.7	1.8	珪頁	Ⅱ	
178	不定形石器	19土・フク土	3.7	4.0	1.0	15.2	珪頁	Ⅱ	
179	不定形石器	Q－24・Ⅰ	4.4	3.6	1.3	21.2	珪頁	Ⅱ	
180	不定形石器	O－30・Ⅰ	6.0	4.8	1.1	49.3	珪頁	Ⅰ	
181	不定形石器	Q－24・Ⅲ上	7.9	7.6	1.8	67.1	珪頁	Ⅲ	

遺構内礫石器

図版番号	器種	出土地・層位	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	分類	備考
図19-182	敲磨器	6土・フク土	(9.7)	6.1	4.0	(374)	流	Ⅱb	S－2　欠損
183	敲磨器	43土・フク土	(9.9)	5.1	3.2	(203)	凝	Ⅱa	S－1　欠損
184	敲磨器	19土・フク土	10.3	7.5	3.9	468	安	Ⅰ	S－9
185	敲磨器	48土・フク土	13.0	(7.4)	5.2	(420)	流	Ⅰ	S－13　欠損
186	敲磨器	6土・フク土	(8.8)	4.2	3.5	(211)	流	Ⅱb	S－1　欠損
187	敲磨器	5土・フク土	(9.1)	5.4	2.4	(171)	凝	Ⅱa	S－7　欠損
188	砥石	19土・フク土	5.2	4.3	3.8	68	砂凝	Ⅰ	S－3
189	砥石	1掘立・フク土	(10.2)	(7.8)	(2.1)	(127)	砂凝	Ⅱ	Pit1　S－2　欠損
190	石錘	5土・フク土	(5.1)	(7.4)	(2.1)	(85)	流	Ⅲ	S－8　欠損
191	石錘	5土・フク土	10.8	8.7	3.4	362	流	Ⅰa	S－3
192	石錘	5土・フク土	(11.9)	8.8	2.6	(300)	流	Ⅰa	S－12　欠損
193	石錘	1掘立・フク土	13.8	10.5	3.2	535	安	Ⅱa	Pit3　S－3
194	石錘	48土・フク土	11.7	8.3	2.7	335	流	Ⅰb	S－1
195	軽石	42土・フク土	8.7	(6.1)	3.2	(47)	軽石	Ⅰ	S－3　欠損
196	軽石	1掘立・フク土	5.3	(4.4)	2.7	(11)	軽石	5	Pit2　S－1　欠損
197	軽石	5土・フク土	3.1	1.9	1.3	2	軽石	Ⅰ	S－10
198	軽石	19土・フク土	5.6	(2.5)	2.2	(9)	軽石	Ⅰ	S－11　欠損
199	軽石	48土・フク土	8.9	5.4	1.7	14	軽石	Ⅰ	S－5

遺構外礫石器

図版番号	器種	出土地・層位	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	分類	備考
図20-200	石錘	P－24・Ⅱ	8.3	6.8	2.1	147	石安	Ⅰa	
201	石錘	R－24・Ⅱ	6.1	5.6	1.6	85	ホ	Ⅰa	
202	石錘	R－26・Ⅱ	8.7	8.2	1.9	201	安	Ⅰa	
203	石錘	U－20・Ⅱ	9.0	8.0	2.1	158	流	Ⅰa	
204	石錘	U－19・Ⅱ	13.5	9.0	2.4	341	流	Ⅱa	
205	石錘	T－19・Ⅱ	10.9	8.5	1.7	174	流	Ⅰb	
206	石錘	W－20・Ⅰ	7.8	6.2	2.1	112	安	Ⅰb	
207	石錘	O－20・Ⅰ	9.0	7.8	1.3	161	安	Ⅰb	
208	石錘	P－32・Ⅲ上	9.4	6.9	1.6	172	安	Ⅰb	
209	石錘	M－31・Ⅰ	10.3	8.4	1.9	238	石安	Ⅰb	
210	石錘	P－24・Ⅱ	11.0	7.8	1.9	264	安	Ⅱb	
211	石錘	Y－21・Ⅱ	9.6	(7.7)	1.6	(156)	凝	Ⅰa	欠損
212	軽石	Q－25・Ⅱ	7.9	3.8	3.1	12	軽石	Ⅰ	
213	軽石	O－27・Ⅱ	8.2	4.8	2.3	19	軽石	Ⅰ	
214	軽石	N－28・Ⅱ	8.2	4.8	1.8	16	軽石	Ⅰ	
215	軽石	Q－23・Ⅰ	9.4	6.0	3.6	85	軽石	Ⅰ	
216	軽石	Q－23・Ⅱ	6.2	3.7	1.0	5	軽石	Ⅰ	
217	軽石	Q－23・Ⅱ	7.1	5.2	2.9	36	軽石	Ⅰ	
218	軽石	S－24・Ⅱ	7.1	4.6	2.6	25	軽石	Ⅰ	
219	軽石	R－22・Ⅲ上	5.9	(4.4)	1.7	(17)	軽石	Ⅰ	欠損
220	軽石	O－27・Ⅱ	(4.4)	5.1	1.7	(8)	軽石	Ⅰ	欠損
221	軽石	Q－23・Ⅰ	(3.3)	4.7	2.1	(7)	軽石	Ⅱ	欠損　貫通孔

土製品・石製品

図版番号	器種	出土地・層位	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
図21-222	土偶	R－22・Ⅱ	(5.1)	4.7	1.4	(24)	欠損
223	鐸型土製品	O－21・Ⅰ	(4.9)	(3.7)	(2.7)	(19)	欠損
224	鐸型土製品	T－21・Ⅱ	4.5	(2.9)	(2.1)	(12)	欠損
225	土製品	D－26・Ⅰ	(3.4)	1.1	(1.1)	(5)	欠損
226	土製品	O－21・Ⅰ	(3.8)	(4.1)	(3.5)	(28)	欠損
227	土玉	R－20・Ⅲ上	2.6	1.5	(1.4)	(4)	欠損
228	円盤状土製品	26土・フク土	2.8	2.6	0.6	5	沈線
229	土製品	P－24・Ⅲ上	(3.4)	(3.3)	(3.0)	(25)	欠損
230	土製品	T－18・Ⅲ	(3.1)	(3.2)	(1.4)	(10)	円形刺突
231	硬玉製垂飾品	R－22・Ⅲ上	2.6	1.2	0.6	4	翡翠
232	石製品	19土・フク土	12.7	8.7	3.2	218	凝灰質砂岩
233	石剣	P－25・Ⅲ	(8.3)	2.4	0.9	(34)	結晶片岩
234	円盤状石製品	T－18・Ⅱ	4.0	3.9	1.9	33	凝灰質泥岩
235	石製品	Q－24・Ⅲ上	3.9	2.1	1.1	13	泥岩
236	石製品	Q－23・Ⅱ	(7.5)	4.6	3.4	(146)	凝灰岩
237	石製品	R－23・Ⅲ上	2.8	1.8	1.3	7	泥岩

第４章　古代以降の遺構

第１節　検出遺構

検出した遺構は、時期不明の竪穴遺構１軒、平安時代の焼成遺構と考えられる土坑２基である。

１　竪穴遺構

第１号竪穴遺構（図22）

［位　置］　調査区東側のＷ・Ｘ－20・21グリッドに位置する。

［平面形・規模］　西側が調査区域外にかかるため調査部分から推定して平面形は隅丸長方形、深さは1m6cmを測る。底面西よりにピット（深さ40cm）を検出した。

［堆積土］　堆積土は６層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の破片と石錘が出土している。

［小　結］　時期不明の遺構で、形態が七戸城北館の第49号建物跡と似ていることから酒蔵か米倉の可能性が考えられる。

２　土坑

第３号土坑（図22）

［位　置］　調査区東側のＴ－16グリッドに位置する。

［平面形・規模］　長軸1m32cm、短軸1m8cmの隅丸方形、深さは18cmである。

［堆積土］　４層に分層され、第４層は炭化物を多く含み、第２層と第３層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から礫が出土している。

［小　結］　形態から平安時代の土師器の焼成遺構と考えられる。また、出土した炭化材の放射性年代測定では、1220±50(1950年から）年前であると測定されている。

第７号土坑（図22）

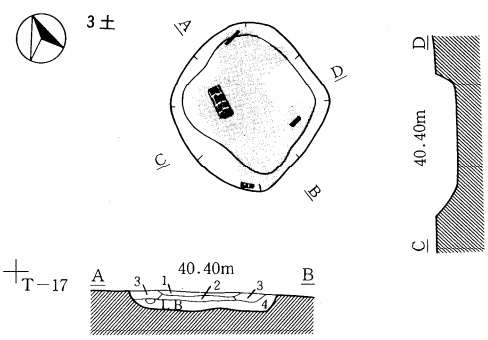
［位　置］　調査区東側のＴ－15グリッドに位置する。

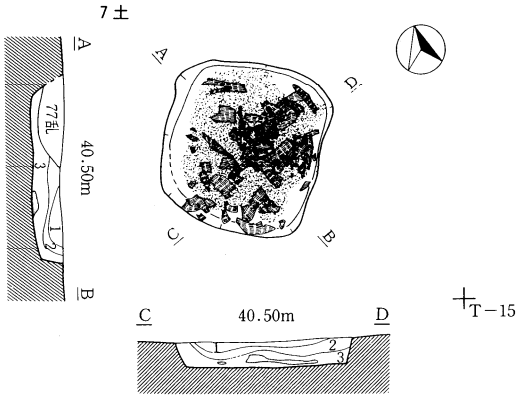
［平面形・規模］　長軸1m38cm、短軸1m90cmの隅丸方形で、深さは21cmである。

［堆積土］　３層に分層される。第３層は炭化物を多く含み、第２層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

［小　結］　形態から平安時代の土師器の焼成遺構と考えられる。また、出土した炭化材の放射性年代測定では、1260±40(1950年から）年前であると測定されている。



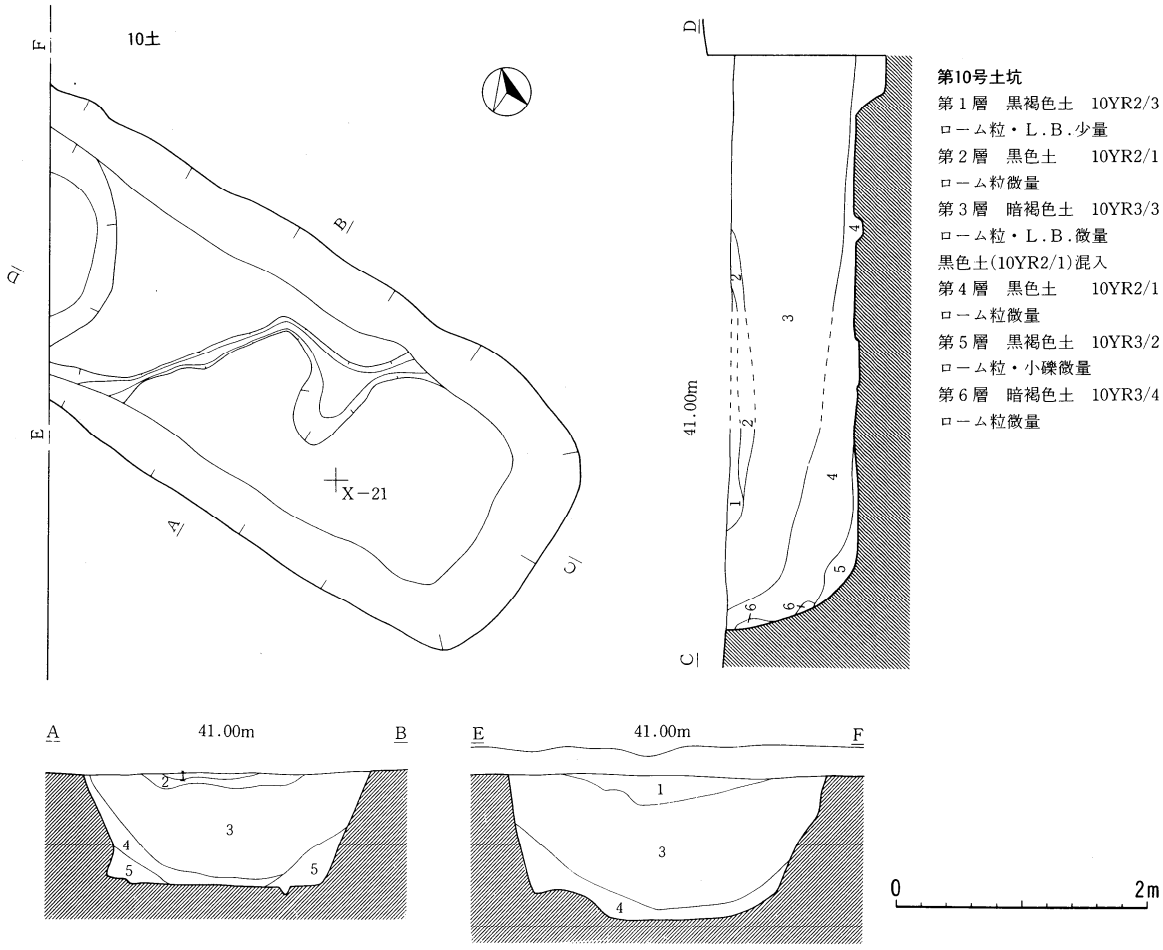


第3号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第2層	B−Tm層		炭化物微量　炭黄褐色土(10YR4/2)混入
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量 B−Tm混入
第4層	炭化物層		ローム粒微量　焼土粒極微量　灰少量 黒色土(10YR1.7/1)混入

第7号土坑

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量　炭化物・焼土粒極微量
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒極微量　炭化物微量　B−Tm混入
第3層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒極微量　炭化物中量　焼土粒極微量



第10号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/3
	ローム粒・L.B.少量	
第2層	黒色土	10YR2/1
	ローム粒微量	
第3層	暗褐色土	10YR3/3
	ローム粒・L.B.微量	
	黒色土(10YR2/1)混入	
第4層	黒色土	10YR2/1
	ローム粒微量	
第5層	黒褐色土	10YR3/2
	ローム粒・小礫微量	
第6層	暗褐色土	10YR3/4
	ローム粒微量	

図22　第3号・第7号・第10号土坑

第５章　自然科学的分析

第１節　放射性炭素年代測定

青森県埋蔵文化財調査センター　　様　　(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定結果報告書

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age (y BP) ： 14C 年代測定値
試料の 14C／ 12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。
半減期として5568年を用いた。

補正14C age (y BP) ： 補正 14C 年代値
試料の炭素安定同位体比(13C／ 12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
14C／ 12C の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。

δ 13C (permil) ： 試料の測定 14C／ 12C 比を補正するための 13C／ 12C 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)
で表現する。

$$\delta\,13C\,(‰) = \frac{(13C/12C)[試料] - (13C/12C)[標準]}{(13C/12C)[標準]} \times 1000$$

ここで、 13C／ 12C [標準] ＝ 0.0112372である。

暦 年 代 ： 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。　具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14 C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。 最新のデータベース("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)) により約19000年までの換算が可能となった。*

*(但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

測定方法などに関するデータ

測定方法　AMS ： 加速器質量分析
Radiometric ： 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他 ： 試料の前処理、調製などの情報

前処理　acid-alkali-acid ： 酸 - アルカリ - 酸洗浄
acid washes ： 酸洗浄
acid etch ： 酸によるエッチング
none ： 未処理

調製、その他
Bulk-Low Carbon Material ： 低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction ： 骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction ： 木材のセルローズ抽出

Extended Counting ： Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 ： BETA ANALYTIC INC.
4985 SW 74 Court, Miami, Fl.33155, U.S.A

Radiocarbon Dating Report　　Geo Science Laboratory

C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター　様　　990208

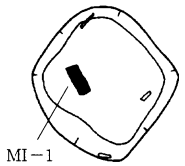
試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	δ13C(permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 137338	1240 ± 50	-26.0	1220 ± 50

試料名 (12913) MI-1 (第３号土坑)
測定方法、期間 Standard-AMS
試料種、前処理など charred material　acid-alkali-acid

Beta- 137339	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40

試料名 (12914) MI-2 (第７号土坑)
測定方法、期間 Standard-AMS
試料種、前処理など charred material　acid-alkali-acid

第３号土坑



第７号土坑

0　　2m

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。 モダン リファレンス スタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic Acidの C14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

(株)地球科学研究所　　〒468 名古屋市天白区植田本町1-608 TEL052-802-0703
2000年2月3日　　1 / 1

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables:C13/C12=-25.4:lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137339

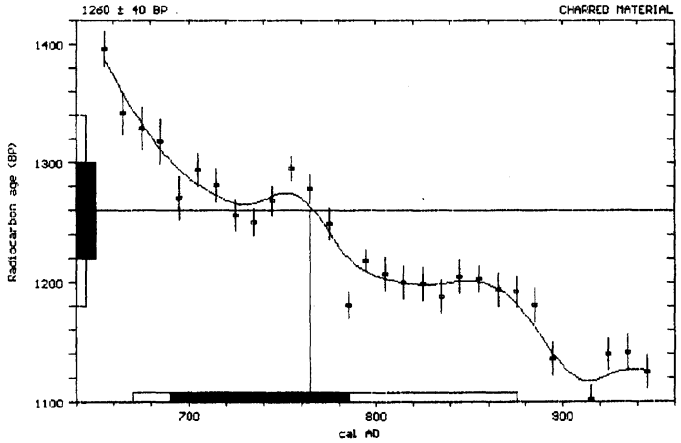
Conventional radiocarbon age: 1260 ± 40 BP

Calibrated results: cal AD 670 to 875 (Cal BP 1280 to 1075)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: cal AD 765 (Cal BP 1185)

1 sigma calibrated results: cal AD 690 to 785 (Cal BP 1260 to 1165)
(68% probability)



References:

Calibration Database
Editorial Comment
Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii
INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ▪ Tel: (305)667-5167 ▪ Fax: (305)663-0964 ▪ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables:C13/C12=-26:lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137338

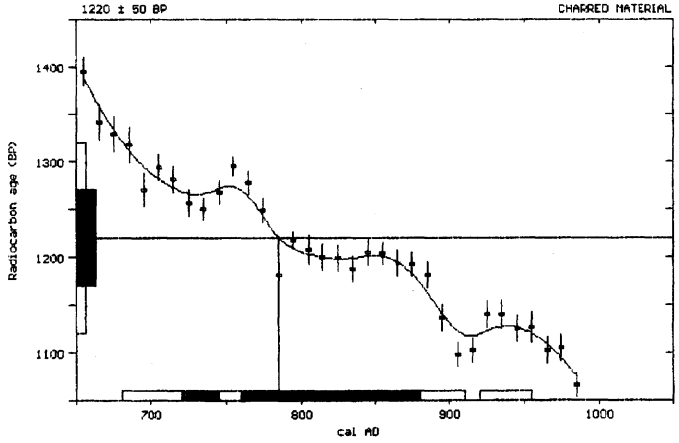
Conventional radiocarbon age: 1220 ± 50 BP

Calibrated results: cal AD 680 to 910 (Cal BP 1270 to 1040) and
(2 sigma, 95% probability) cal AD 920 to 955 (Cal BP 1030 to 995)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: cal AD 785 (Cal BP 1165)

1 sigma calibrated results: cal AD 720 to 745 (Cal BP 1230 to 1205) and
(68% probability) cal AD 760 to 880 (Cal BP 1190 to 1070)



References:

Calibration Database
Editorial Comment
Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii
INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration
Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083
Mathematics
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates
Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ▪ Tel: (305)667-5167 ▪ Fax: (305)663-0964 ▪ E-mail: beta@radiocarbon.com

第６章　　まとめ

1　遺跡の立地

本遺跡は、青森市街地から西方およそ７km離れた野木和湖のすぐ南の低丘陵地上に位置している。遺跡周辺の地形は、なだらかな斜面で、遺跡が所在する丘陵は畑地や山林が広がっている。

標高は、およそ40mで、陸奥湾までの直線距離はおよそ３kmである。

2　検出遺構

遺構は、調査区中央部を中心に土坑４８基（焼成遺構２基を含む）、竪穴遺構１基、掘立柱建物跡１軒の計５０を検出した。

3　出土遺物

遺物は、主にＯ～Ｓ－20～30グリッドから集中して、段ボール箱で63箱分出土している。

そのうちの大部分が縄文時代後期前半の遺物である。

4　まとめ

本遺跡の検出した遺構の多くが縄文時代後期前半の土坑墓と考えられる。一般的に形態が楕円形で、土器などの遺物が出土した10基（４土・12土・16土・19土・23土・24土・26土・35土・38土・42土）の規模は長軸130～160cm、短軸90～110cmに集中している。壁の立ち上がりはやや内面傾く傾向が見られ、主軸方位はＥ－40°－ＮからＥ－40°－Ｓの東側にとるものが多い。その他の形態として円形や不整形の土坑も土坑墓の可能性が考えられる。また、土坑の覆土から多くの土器が出土している。遺物の割合として台付や小型土器の点数が多いことも土坑墓が検出されていることと密接な関係があると思える。いずれにしても限られた部分の調査と周辺における同時期の検出例が少ないため不明な部分が多く、今後の調査の事例が望まれる。

出土した石器(163点)の中では、石錘(75点:46%)と軽石(23点:14%)が半数以上を占める。石錘の大きさは８cm前後で重さ200ｇほどのものが多く、海に近いことなどから漁具として使用された可能性があり、本遺跡の生業との関連が考えられる。

縄文時代後期前半と考えられる集落は調査区外にあると思われ、調査区は墓域と考えられる。

平安時代の遺構として焼成遺構が２基検出されているが住居跡は検出されなかった。

また、確認調査を行った野木和(3)遺跡、岡町(8)遺跡、岡町(9)遺跡では、いずれも遺構が検出されず、遺物も岡町(8)遺跡でごく少量出土したのみである。

（中嶋・竹内）

《引用参考文献》

青森県教育委員会　1973　「東北新幹線関係遺跡分布調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第６集
青森県教育委員会　1980　「新納屋遺跡(2)発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第62集
青森県教育委員会　1988　「上尾駮(2)遺跡Ⅱ発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第115集
青森県教育委員会　1995　「泉山遺跡Ⅲ発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第190集
青森県教育委員会　2000　「三内丸山(6)遺跡発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第279集
青森市教育委員会　1971　「野木和遺跡調査報告書」青森市の文化財５
青森市教育委員会　1996～1999「小牧野遺跡発掘調査報告書」～「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」
青森市埋蔵文化財調査報告書第30集・第35集・第40集・第45集

報告書抄録

ふりがな	みやもといせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	宮本（2）遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第293集
編著者名	中嶋友文、竹内誠司
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042　青森市新城字天田内152-15　TEL.017－788－5701
発行年月日	2001年2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
宮本(2)	青森市大字 岡町字宮本 75－124外	02201	185	40° 50′ 26″	140° 39′ 46″	19990421 ～ 19990730	2,700	県道青森五所川原線道路建設事業に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮本(2)	墓域	縄文・平安	土坑　46基 掘立柱建物跡　1棟 焼成遺構　2基 竪穴遺構　1基	縄文土器 石器 土製品 石製品	

A区調査風景

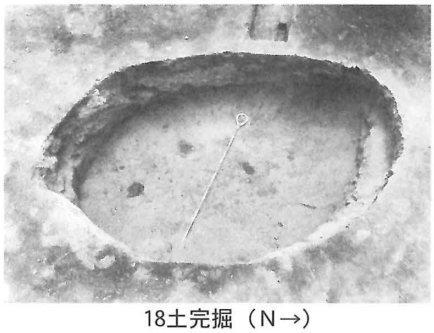
B区調査風景

C区調査風景

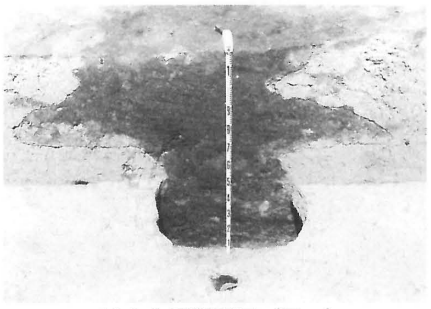
5土完掘（W→）

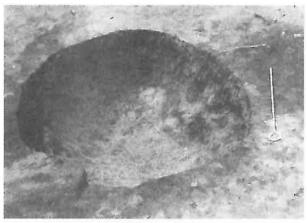
9土完掘（S→）

12土遺物出土状況（W→）

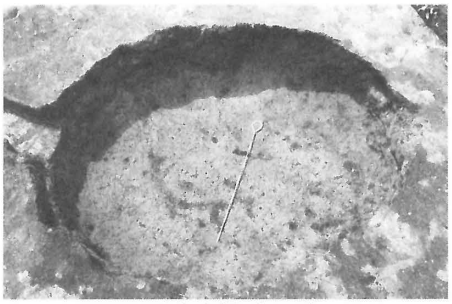

18土完掘（N→）

13土完掘（E→）

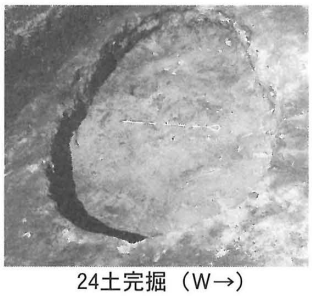

13土土層断面図（E→）

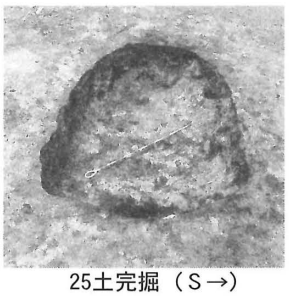

17土完掘（S→）

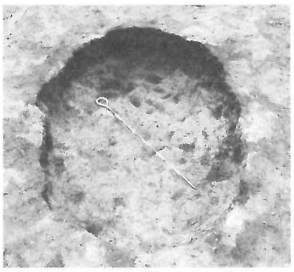
17土遺物出土状況（S→）

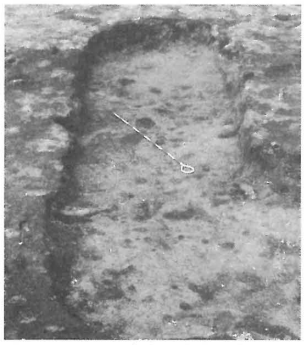

6土完掘（N→）

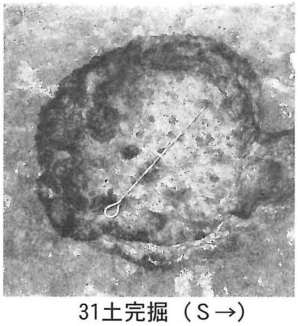
23土完掘（W→）


24土完掘（W→）


25土完掘（S→）


26土完掘（N→）

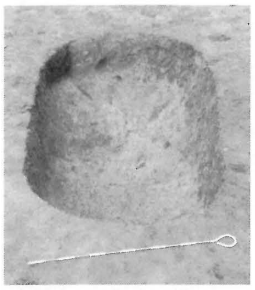

29土完掘（S→）

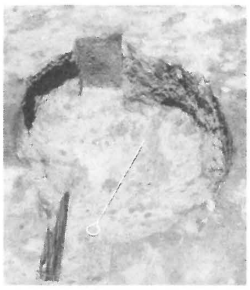

31土完掘（S→）

O-29遺物出土状況（E→）

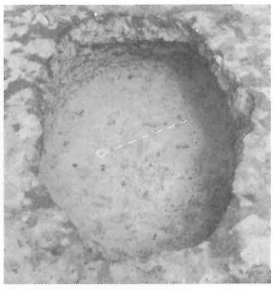
S-20遺物出土状況（SE→）

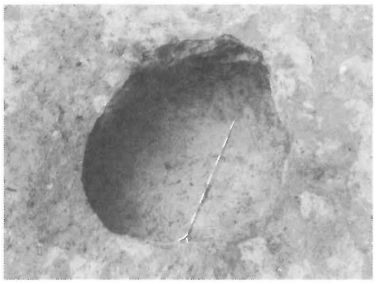
写真１　土　坑（１）


35土完掘（N→）

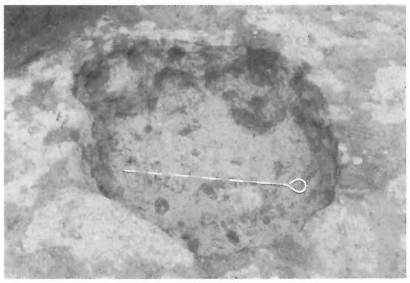

37土完掘（S→）

38土完掘（S→）

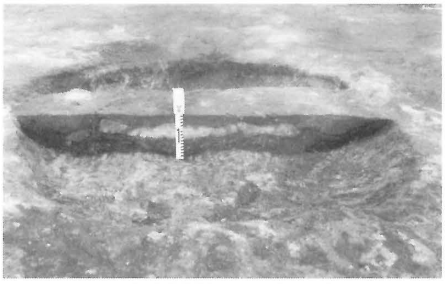

42土完掘（SE→）

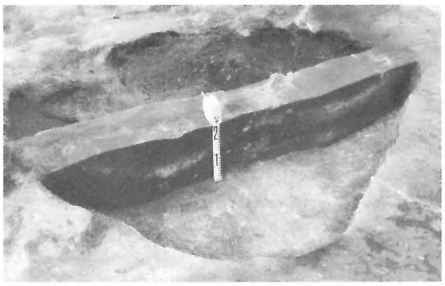

48土完掘（S→）

50土完掘（S→）


51土完掘（W→）

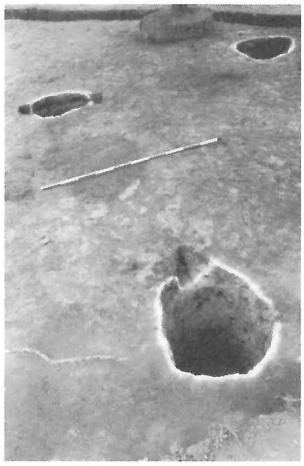
16･17･36･37･54･55･58土完掘（W→）


３土土層断面図（W→）

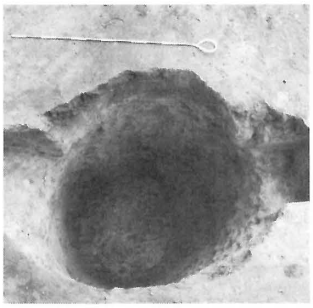

７土土層断面図（S→）

10土完掘（SE→）

10土土層断面図（SE→）


１掘立完掘（E→）

Pit1（57土）完掘（W→）


Pit2（20土）完掘（W→）

Pit3（60土）完掘（W→）

岡町（８）確認調査

岡町（９）確認調査

岡町（９）確認調査

写真２　土 坑（２）

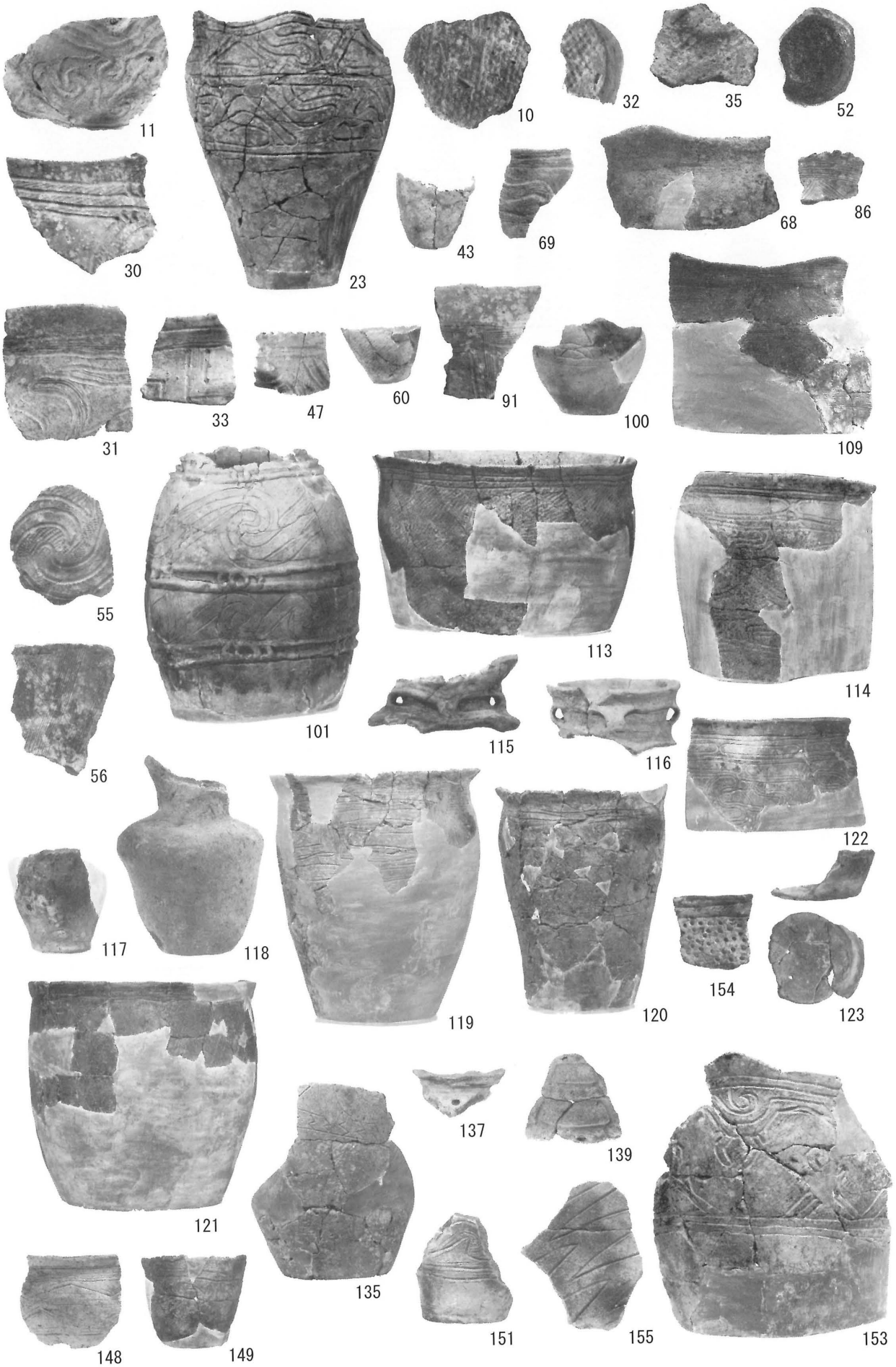

11
23
10
32
35
52
30
43
69
68
86
31
33
47
60
91
100
109
55
101
113
114
56
115
116
122
117
118
119
120
154
123
121
137
139
135
148
149
151
155
153

写真３　出土土器

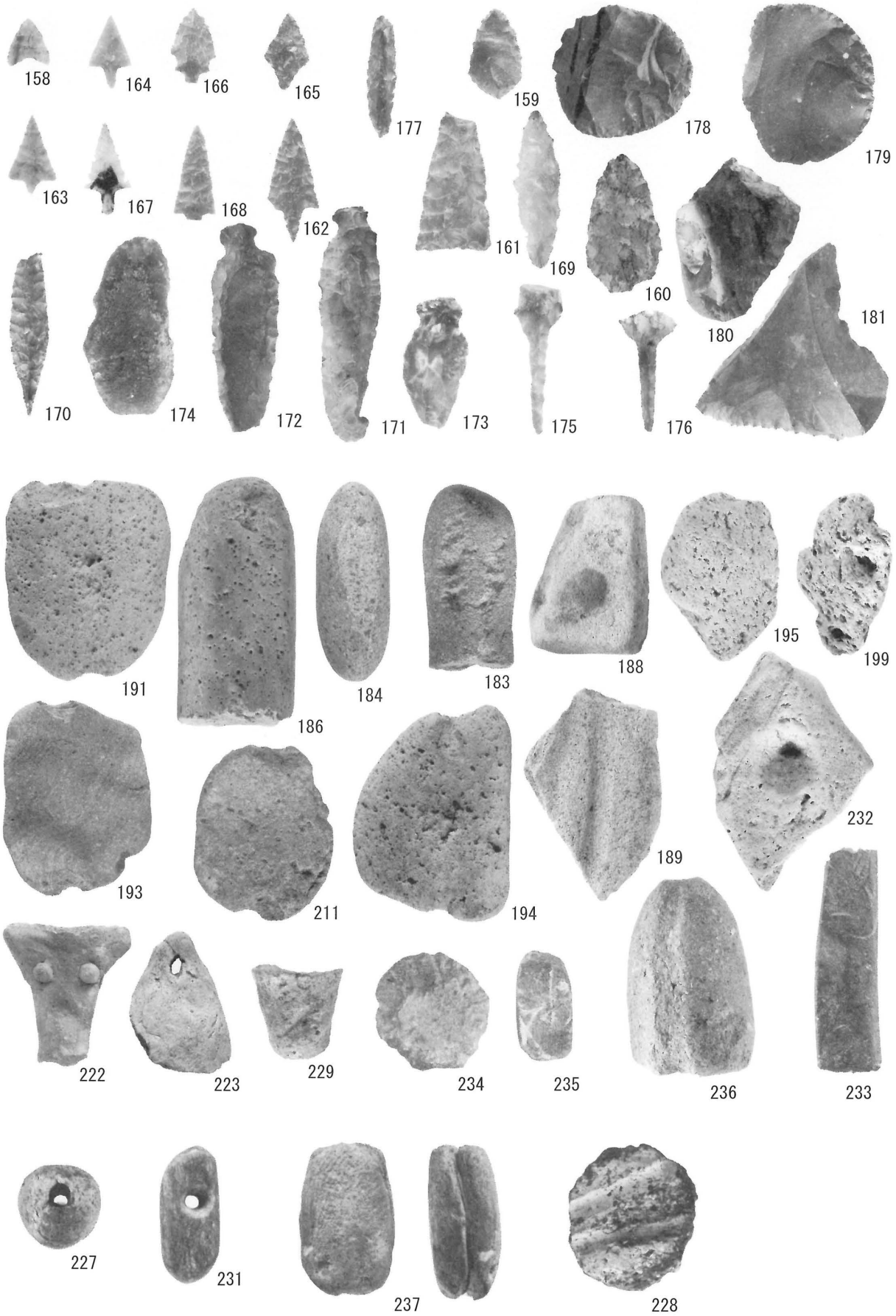


写真４　出土石器・土製品・石製品

青森県埋蔵文化財調査報告書　第293集

宮本（２）遺跡

－県道青森五所川原線道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告－

発行年月日　平成13年２月28日
発　　行　青森県教育委員会
〒030-0801　青森市新町２丁目３番１号
電話 017－722－1111（代表）
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042　青森市新城字天田内152-15
電話 017－788－5701　FAX.017－788－5702
印 刷 所　青森相互印刷株式会社
〒038-0013　青森市久須志４丁目１-25
電話 017－766－5161　FAX.017－766－5162

活彩あおもり
―輝くあおもり新時代―